

# 江田島市地域公共交通計画 (素案)

令和4年（2022年）2月



# 目 次

|             |                                   |           |
|-------------|-----------------------------------|-----------|
| <b>第1章</b>  | <b>はじめに.....</b>                  | <b>1</b>  |
| 1-1         | 本計画の趣旨・位置付け.....                  | 1         |
| 1-2         | 本計画の区域.....                       | 1         |
| 1-3         | 本計画の期間.....                       | 1         |
| <b>第2章</b>  | <b>地域の現状.....</b>                 | <b>2</b>  |
| 2-1         | 位置・地勢.....                        | 2         |
| 2-2         | 人口.....                           | 3         |
| 2-3         | 通勤・通学の状況.....                     | 4         |
| 2-4         | 主な施設の分布.....                      | 6         |
| 2-5         | 観光.....                           | 7         |
| <b>第3章</b>  | <b>江田島市が目指すまちづくりの方向性.....</b>     | <b>9</b>  |
| <b>第4章</b>  | <b>公共交通等の現状.....</b>              | <b>13</b> |
| 4-1         | 公共交通網.....                        | 13        |
| 4-2         | 海上交通.....                         | 14        |
| 4-3         | 陸上交通.....                         | 19        |
| 4-4         | 移動手段確保に係る行政負担額の推移.....            | 32        |
| 4-5         | 市民・来訪者の移動に係る現状.....               | 33        |
| 4-6         | 前計画に位置づけた事業の実施状況と目標達成状況.....      | 35        |
| <b>第5章</b>  | <b>江田島市の公共交通の役割と課題.....</b>       | <b>38</b> |
| 5-1         | 江田島市の公共交通が果たすべき役割.....            | 38        |
| 5-2         | 江田島市の公共交通の課題.....                 | 38        |
| <b>第6章</b>  | <b>計画の基本方針・目標.....</b>            | <b>39</b> |
| 6-1         | 基本理念・基本方針.....                    | 39        |
| 6-2         | 地域公共交通網における役割分担と今後の方針.....        | 40        |
| 6-3         | 計画の目標と評価指標.....                   | 41        |
| <b>第7章</b>  | <b>目標達成のために行う事業及びその実施主体等.....</b> | <b>42</b> |
| <b>第8章</b>  | <b>計画の進捗管理・目標達成状況の評価.....</b>     | <b>55</b> |
| 8-1         | 計画の推進体制.....                      | 55        |
| 8-2         | 事業スケジュール.....                     | 55        |
| 8-3         | 事業の進捗管理と評価のスケジュール.....            | 56        |
| <b>参考資料</b> | <b>.....</b>                      | <b>57</b> |
|             | 江田島市公共交通協議会委員等名簿.....             | 57        |

# 第1章 はじめに

## 1-1 本計画の趣旨・位置付け

江田島市は、瀬戸内海に浮かぶ島しょ部であり、広島市や呉市といった都市圏と隣接していることから、航路を主体とした他市町との往来が活発です。また、公共交通は住民の暮らしを支える重要なライフラインであり、移動に関するセーフティネットとしての性質を有していることから、市民の関心が高く、まちづくりにおける重要な分野です。

一方、江田島市は終戦直後から続く人口減少やマイカー普及に伴う移動需要の減少から公共交通利用者が減り続け、公共交通の経営環境は厳しさを増しつつあります。公共交通の維持には経費を賄うだけの収入確保が必要となりますが、海上交通・陸上交通とも、交通事業者による経営努力、利用状況に応じた航路・路線の廃止や減便、運賃値上げのほか、国・県・市からの補助により公共交通サービスを維持している状況となっています。

本市においては、採算性の確保と、セーフティネット機能の確保という両面を視野に入れつつ、市民・交通事業者・行政のそれぞれが負担可能な範囲において、適切な公共交通サービスの構築を図っていく必要があります。

平成25年(2013年)に施行された「交通政策基本法」は、交通を「国民生活の安定向上及び国民経済の健全な発展を図るために欠くことできないもの」とし、「国民その他の者の交通に対する基本的な需要が適切に充足されることが重要」であることを「基本的認識」としています。

また、平成19年(2007年)に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」(以下「活性化再生法」という。)は、交通政策基本法の基本理念にのっとり、「地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資するよう地域公共交通の活性化及び再生のための地域における主体的な取組及び創意工夫を推進」するための方針策定を国に課すとともに、地方公共団体に対しては、これに関する計画の策定を努力義務と規定しています。

本計画は、第2次江田島市総合計画の「生活交通の確保」の項に掲げる「日常生活や交流を支え、安心して暮らせる公共交通が確保されています」という「目指す姿」の実現に資するべく、本市の公共交通における施策等を明らかにする分野別計画として位置づけるとともに、活性化再生法に定める「地域公共交通計画」として策定することとします。

## 1-2 本計画の区域

江田島市全域とします。

## 1-3 本計画の期間

令和4年度(2022年度)から令和8年度(2026年度)までの5年間とします。

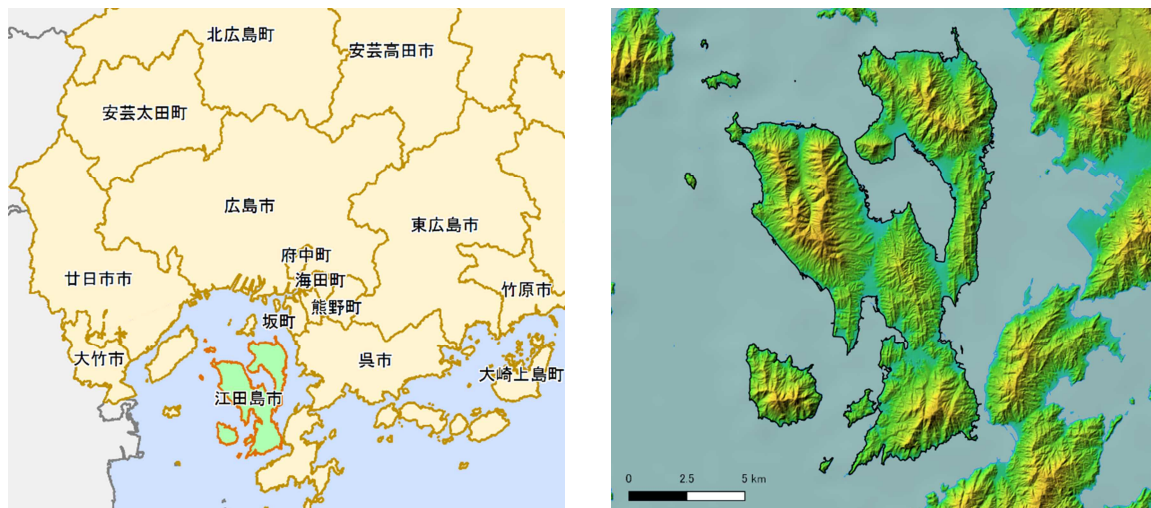
## 第2章 地域の現状

### 2-1 位置・地勢

江田島市は広島県南西部に位置し、広島市から南に約 7.5km、呉市から西に約 6.0km の瀬戸内海に浮かぶ島しょ部となっています。市域は江田島湾を囲んだ Y 字型であり、山地や丘陵地が多い島しょ部固有の地形を有し、平地は沿岸部に集中しています。

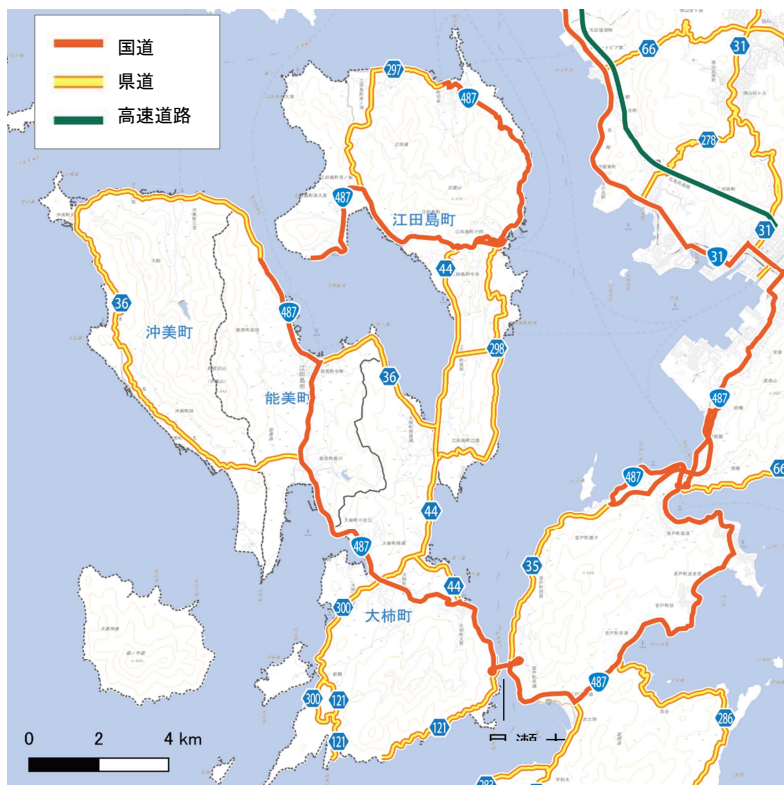
国道 487 号が南北に縦断し、早瀬大橋で陸続きになっており、陸路による他市町への移動が可能となっています。

図 1 江田島市の位置・地勢



出典：地理院タイル（色別標高図）に江田島市の行政区域データを追加して掲載

図 2 道路網



出典：地理院タイル（淡色地図）にライン・記号等を追記して掲載

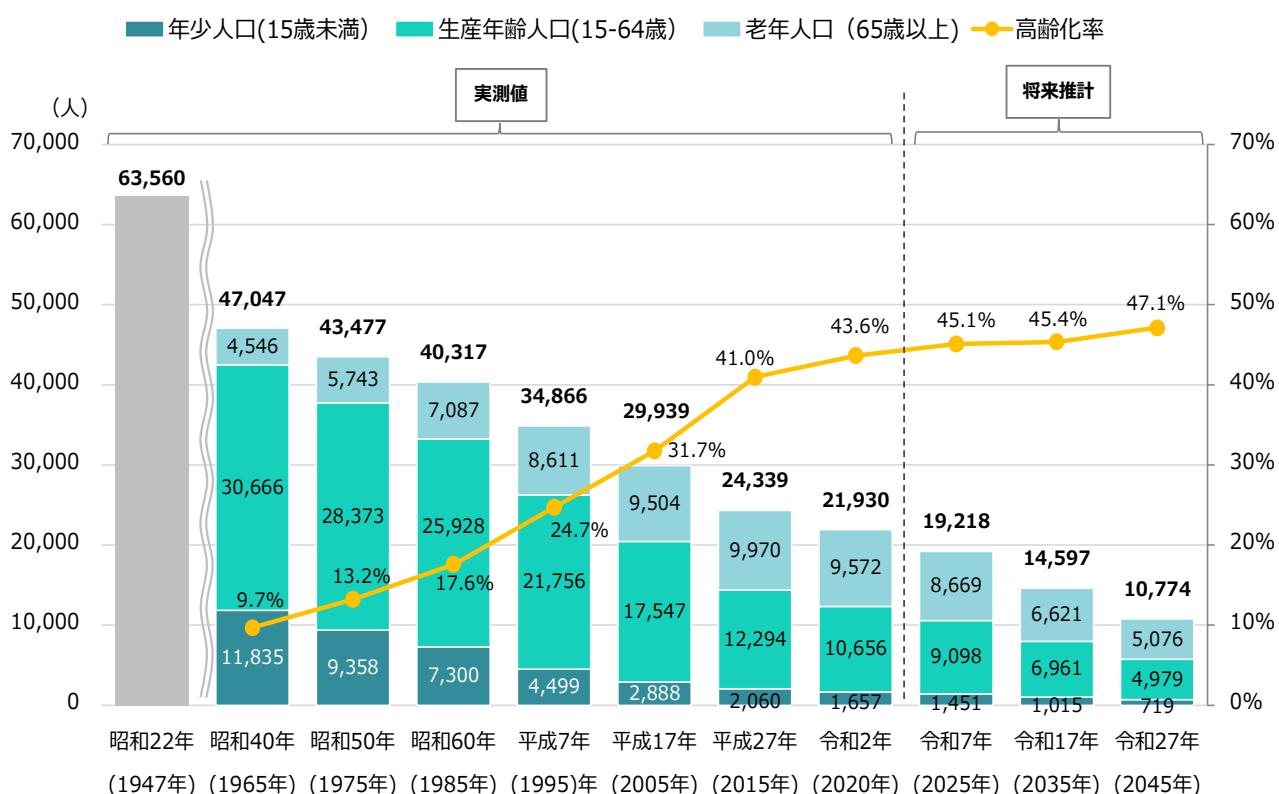


## 2-2 人口

江田島市の総人口は、昭和22年(1947年)の63,560人をピークに一貫して減少しており、令和2年(2020年)国勢調査では21,930人、高齢化率43.6%と、人口減少と高齢化に歯止めがかからない状況が続いています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、江田島市の総人口は今後も減少を続け、令和27年(2045年)時点で10,774人、高齢化率は47.1%になると見込まれています。年齢3区分別で見ると、生産年齢人口(15～64歳)は4,979人と、令和2年(2020年)国勢調査の10,656人から約50%減少する推計となっています。

図3 年齢3区分別人口と高齢化率の推移



出典：国勢調査(1947～2020年)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口(平成30年推計)」  
※年齢3区分別人口は年齢不詳を含めない

## 2-3 通勤・通学の状況

### (1) 市内外の通勤・通学の状況

江田島市からの通勤・通学は、広島市、呉市との間で非常に多くなっています。

江田島市における通勤者の人数は、平成22年(2010年)は4,106人、平成27年(2015年)は3,929人で、177人の減少となっています。通学者の人数は、平成22年(2010年)は655人、平成27年(2015年)は530人で、125人の減少となっています。

図4 江田島市における15歳以上の通勤・通学者の流動状況

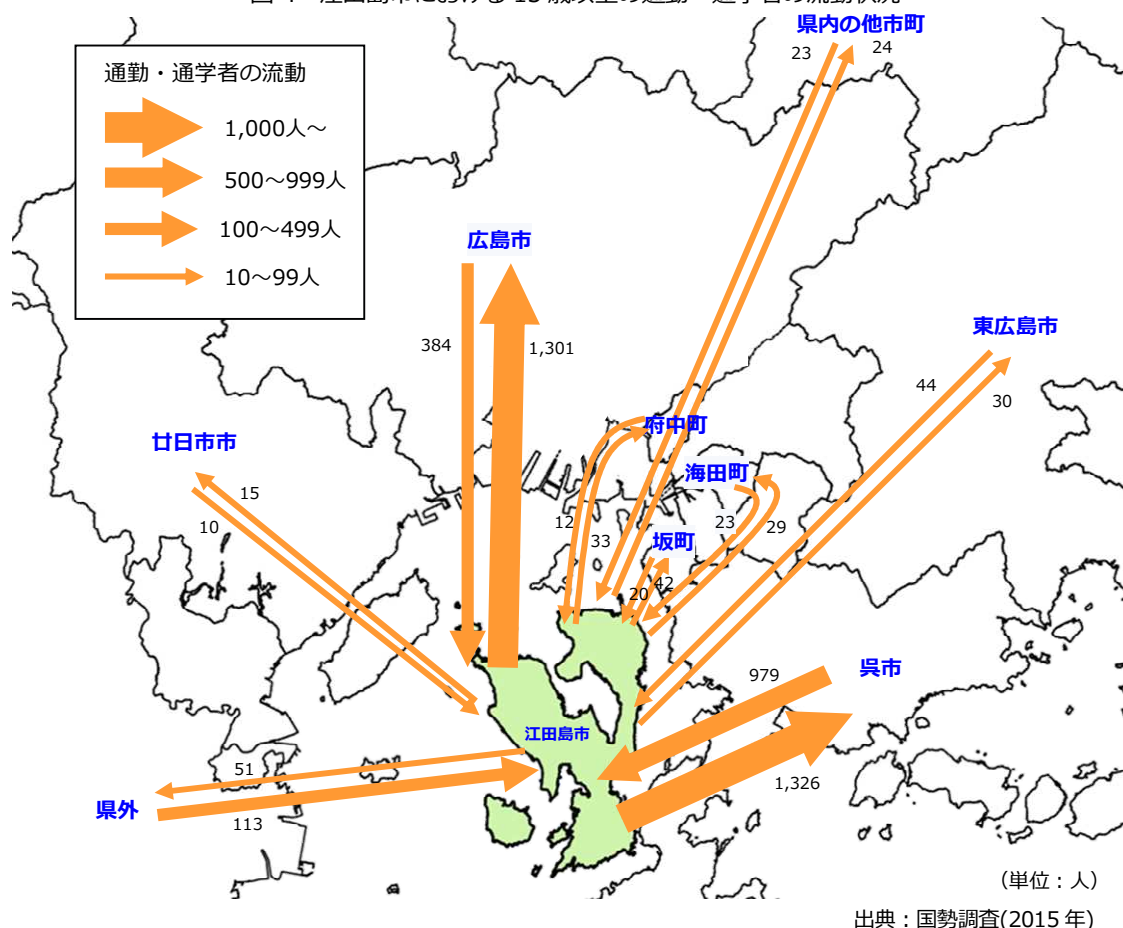


図5 他市町在住で江田島市への通勤者数及び江田島市在住で他市町への通勤者数の推移

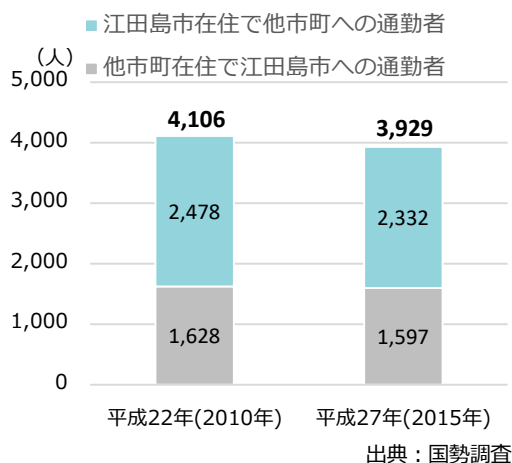
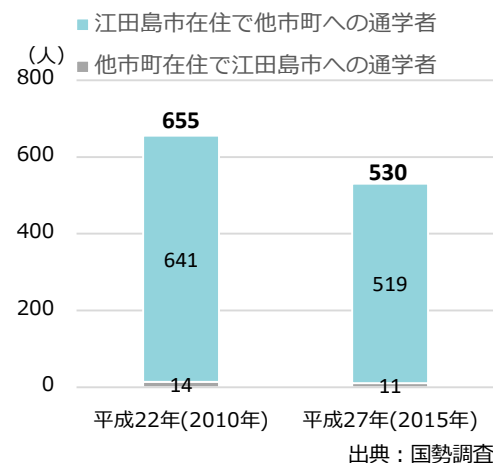


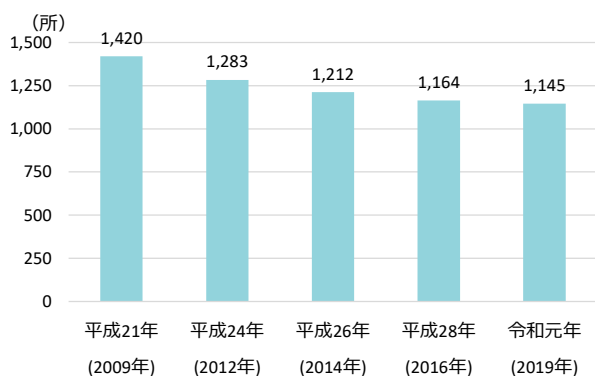
図6 他市町在住で江田島市への通学者数及び江田島市在住で他市町への通学者数(15歳以上)の推移



## (2) 市内事業所の状況

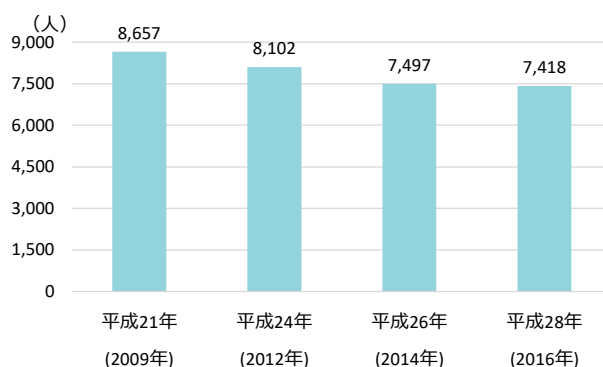
江田島市内の事業所は、平成 21 年(2009 年)は総数 1,420 事業所、令和元年(2019 年)は総数 1,145 事業所であり、275 事業所の減少となっています。また、江田島市内の事業所の従業者は、平成 21 年(2009 年)は総数 8,657 人、平成 28 年(2016 年)は総数 7,418 人で、1,239 人の減少となっています。事業所数・従業者数ともに減少傾向にあることから、市内事業所における就業者の通勤需要は低下していると考えられます。

図 7 市内事業所数の推移



出典：経済センサス

図 8 市内従業者数の推移



出典：経済センサス

一方、江田島市では、平成 30 年(2018 年)4 月から、サテライトオフィス<sup>1</sup>誘致促進事業として、広島県と連携し、企業のオフィス誘致を行ってきました。今後も新たな企業立地等が計画されており、通勤やビジネス移動の需要の変化が予想されます。

- ・平成 29 年(2017 年)に、交流スペース、コワーキングスペース<sup>2</sup>、コミュニティカフェ、移住サポートセンターを備えた「フウド」が沖美町に開設。
- ・令和 3 年(2021 年)に、バレットグループ株式会社や合同会社 GeneLeaf などの IT 企業が江田島市内に進出。
- ・令和 4 年(2022 年)4 月に、広成建設株式会社が旧切串中学校跡地(江田島町切串)に同社の研修センターを開所予定。
- ・令和 5 年(2023 年)1 月の稼働を目指して、旧秋月小学校跡地(江田島町秋月)にオーシャンポイント株式会社が水産加工工場を建設予定。

図 9 コワーキングスペース「フウド」



図 10 バレットグループ株式会社のオフィス「COCODEMO(ココデモ)」



図 11 旧切串中学校跡地に建設予定の研修センター



図 12 旧秋月小学校跡地に建設予定の水産加工工場イメージ



<sup>1</sup> 企業本社や、官公庁・団体の本庁舎・本部から離れた所に設置されたオフィスのこと。

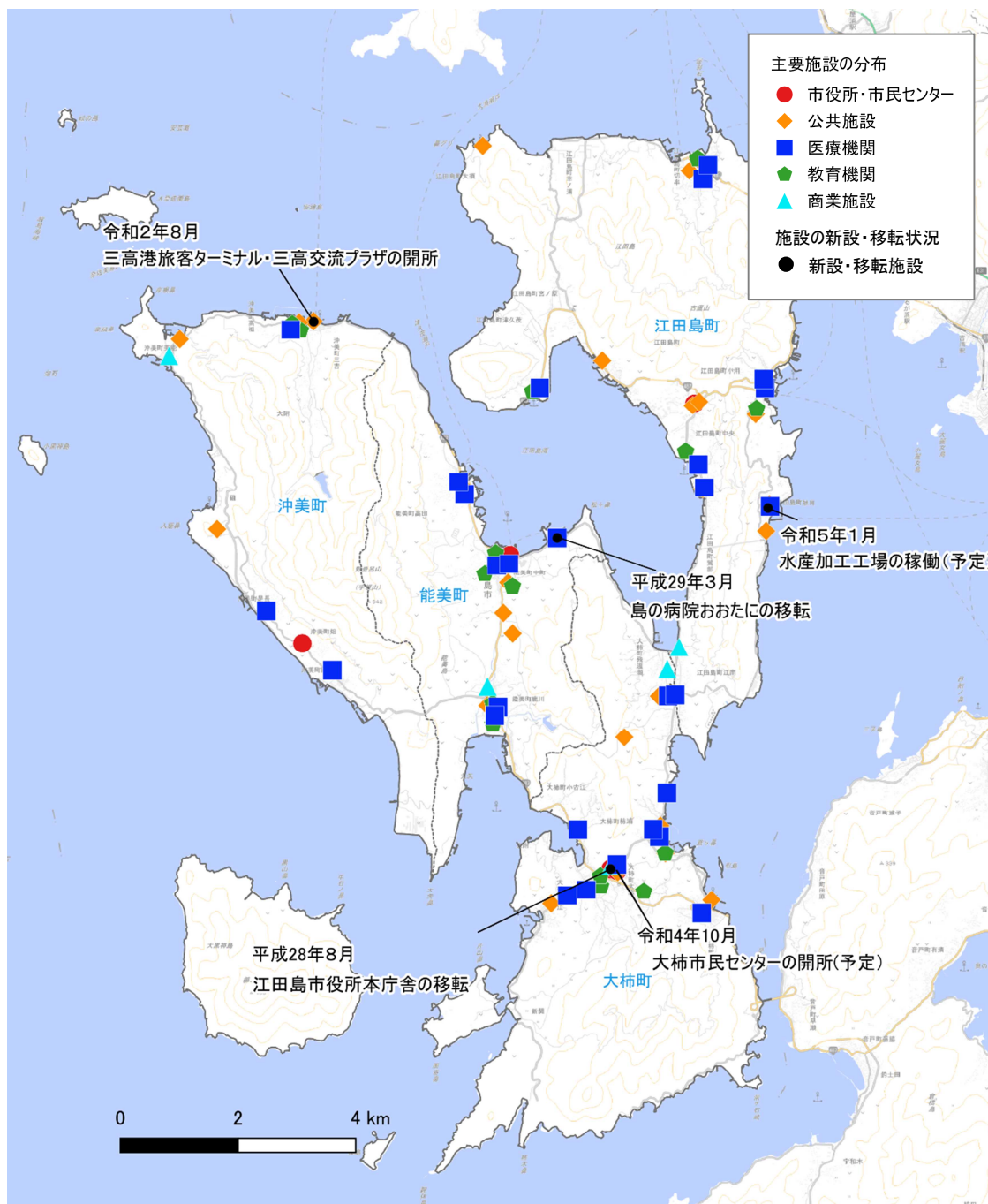
<sup>2</sup> 事務所、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスペースを指す。

## 2-4 主な施設の分布

市内にある移動の目的地となる施設等は、以下のものがあります。市の中心部には複合型ショッピングセンターが位置しているほか、市内の各地に各種施設が点在しています。

また、近年、江田島市役所本庁舎の移転、島の病院おたにの移転等、移動の目的地となる施設の移転等が相次いでいます。

図 11 主な施設の分布



出典：地理院タイル（淡色地図）にポイント等を追記して掲載



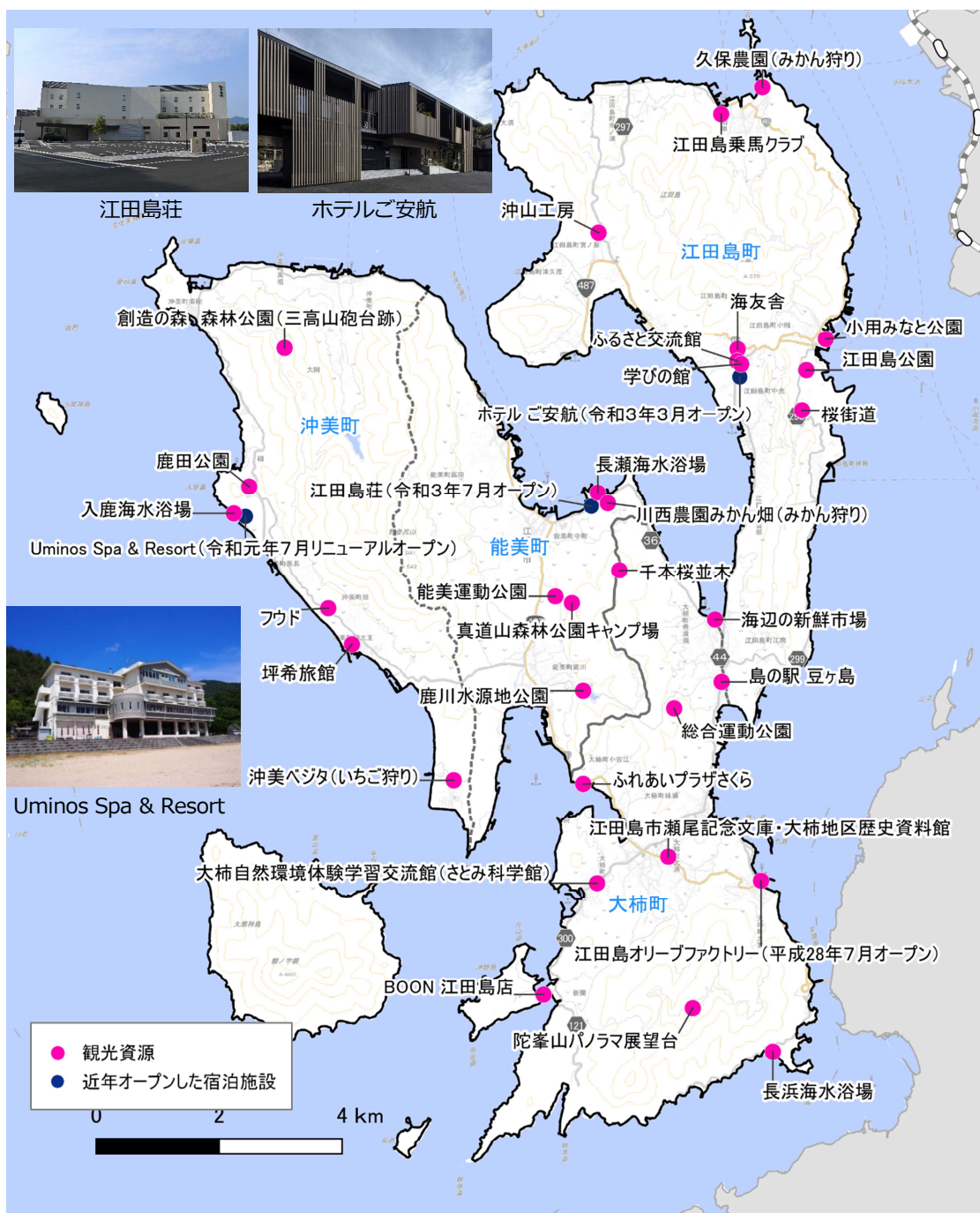
## 2-5 観光

### (1) 観光資源の状況

江田島市の主な観光資源(集客施設)として、海軍ゆかりの歴史資源や温泉施設、海水浴場などが、以下のように全市的に分布しています。

また、近年は新しい宿泊施設のオープンや、以下のような体験型観光メニューの造成など、様々な取組が行われています。

図 12 来訪者の目的地となる観光資源の分布



出典：地理院タイル(淡色地図)に、江田島市観光ガイドマップ内の観光資源等を追記して掲載

- 令和3年(2021年)2月、江田島の島暮らしや観光体験ができるイベント「えたじま ものがたり 博覧会」を実施（令和3年は新型コロナウイルス感染症拡大のためオンライン開催）。
- 令和3年(2021年)8月、サイクリングをしながら地元農家との交流を通じて江田島市の自然や食を満喫するレンタサイクルツアー「Otsukai!江田島」を販売開始。

図 13 えたじま ものがたり 博覧会



図 14 Otsukai!江田島

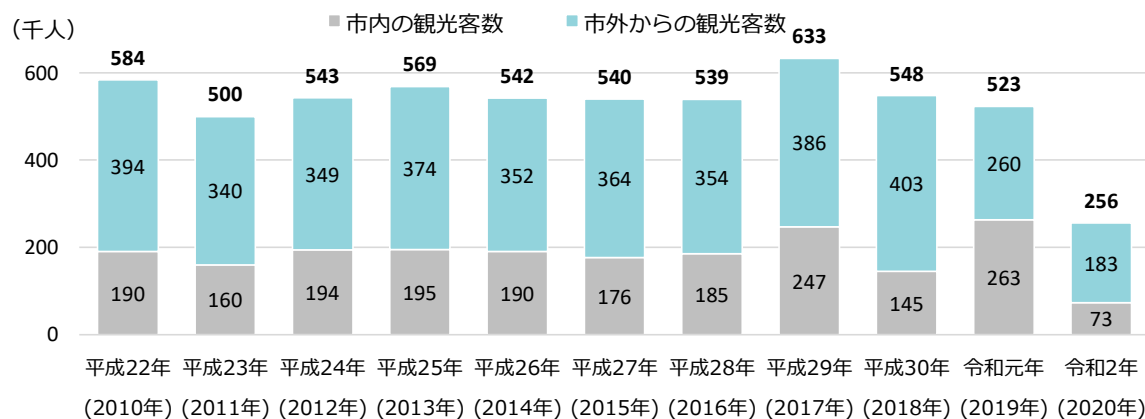


出典：江田島市観光協会

## (2) 観光客数の推移

江田島市の観光客数は、近年、概ね 50 万人台で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症がまん延した令和2年(2020年)は、大幅な落ち込みが生じています。

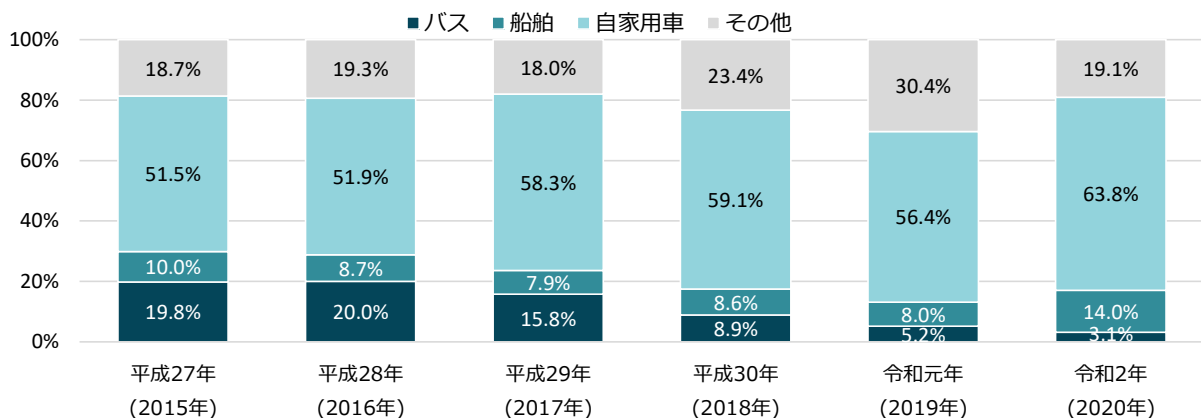
図 15 江田島市の観光客数の推移



出典：広島県観光客数の動向

図 16 江田島市の総観光客数の交通機関別割合の推移

また、観光客数の交通機関別割合によると、総観光客数の5割以上は自家用車による来訪となっており、公共交通機関（バス・航路）の利用割合は減少傾向にあります。



出典：広島県観光客数の動向

# 第3章 江田島市が目指すまちづくりの方向性

## (1) 第2次江田島市総合計画

平成26年度(2014年度)に策定した第2次江田島市総合計画(平成27年度(2015年度)～令和6年度(2024年度))は、10年後の目指す姿として、「協働と交流で創りだす『恵み多き島』えたじま」を掲げています。10年後(令和6年度(2024年度))の目標人口を23,000人と設定していますが、既に人口はこれを割り込み、達成は難しい状況になっています。

まちづくりの基本戦略としては、市民の暮らしの満足度を高める「市民満足度の高いまちづくり」と、交流人口の増加を図る「未来を切り開くまちづくり」の2つを設定し、取組を進めています。公共交通については、「市民満足度の高いまちづくり」の「基盤」の一つとして、「生活交通の確保」を掲げています。

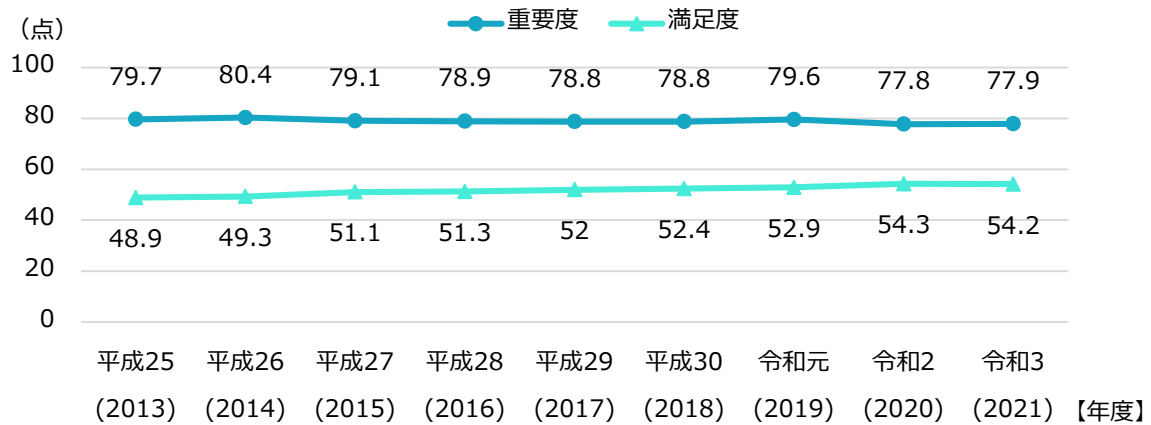
毎年実施している市民満足度調査においては、「海上交通の確保」「バスなどの確保」は共に重要度は令和3年度(2021年度)の平均値74.2ポイントを超えている一方、満足度は平均値57.1ポイントを下回っています。

図17 第2次江田島市総合計画



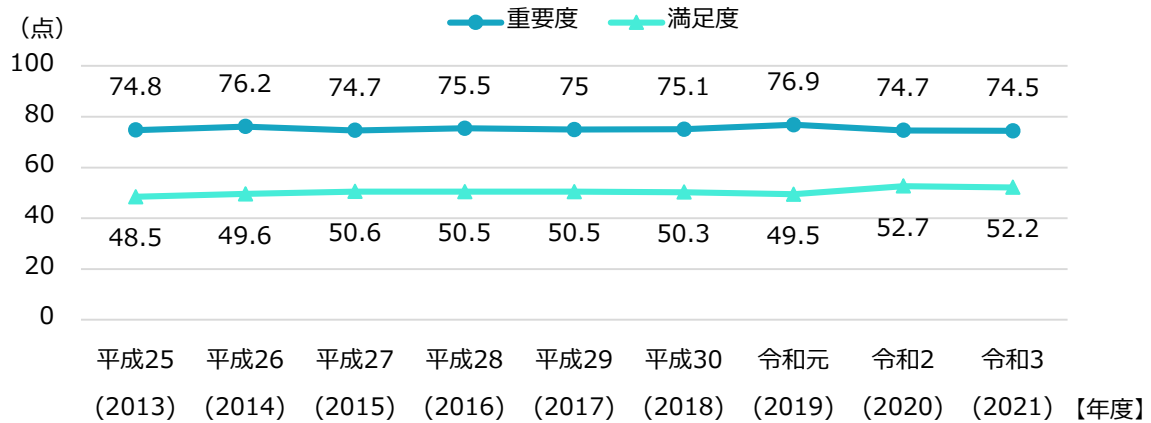


図 18 「海上交通の確保」の重要度ポイントと満足度ポイントの推移



出典：市民満足度調査

図 19 「バスなどの確保」の重要度ポイントと満足度ポイントの推移



出典：市民満足度調査

## (2) 江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略

令和2年度(2020年度)に策定した、江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略(令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度))は、江田島市の人口の現状把握と将来推計に基づき、「地域で暮らすためのしごとをつくる。」「人の流れをつくり、縁を有する人を増やす。」「子どもが生まれ、育つ環境をつくる。」「元気に暮らし続けられるまちをつくる。」という4つの基本目標を設定し、各プロジェクトに取り組むこととしています。

交通関連の取組としては、「次世代型公共交通システムの研究・実施」「通学定期補助制度の運営」「住民相互の送迎や乗り合わせによる移動の推進」が重点項目として掲げられています。

図 20 江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略



**基本姿勢1** 現在を支える世代の定住を図る。

**基本姿勢2** 次代を担う子どもを増やす。

### 江田島市の目指すべき将来の方向

#### 基本目標Ⅰ 地域で暮らすためのしごとをつくる。

- プロジェクト1** しごとをつくる・しごとの場を確保する。  
～創業・起業促進、企業誘致、地場産業の活性化、担い手確保、生産基盤の有効活用
- プロジェクト2** しごとで稼ぐ。～生産量増加、高付加価値化、6次化、販路拡大、PR
- プロジェクト3** お客を呼び込む。～観光魅力づくり、観光情報の発信、受け入れ体制整備
- プロジェクト4** しごとと人をマッチングする。～求人情報の提供、求職者とのマッチング

#### 基本目標Ⅱ 人の流れをつくり、縁を有する人を増やす。

- プロジェクト1** 知ってもらふ・興味を持ってもらふ。～イメージづくり、情報発信
- プロジェクト2** 来てもらふ、滞在してもらふ。～来訪のきっかけづくり
- プロジェクト3** 江田島市を好きになってもらう。～縁づくり、愛着の醸成、関係人口の創出
- プロジェクト4** 暮らしてもらふ。～定住促進、住環境、地域コミュニティ

#### 基本目標Ⅲ 子どもが生まれ、育つ環境をつくる。

- プロジェクト1** 子どもが郷土で生まれる。～保育・幼児教育
- プロジェクト2** 郷土でしっかりと学ぶ。～学校教育
- プロジェクト3** 子育てしやすい環境をつくる。  
～子育て情報、子育て支援、医療の確保、子どもの居場所(遊び場)づくり

#### 基本目標Ⅳ 元気に暮らし続けられるまちをつくる。

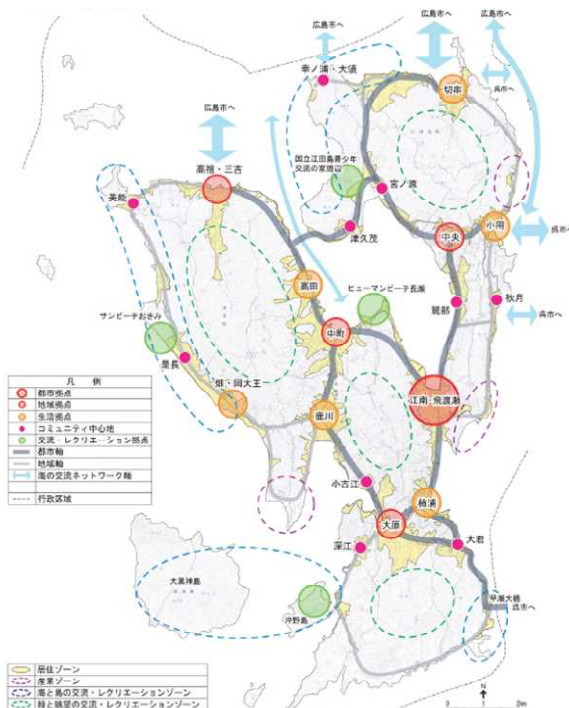
- プロジェクト1** 元気なからだを保つ。～医療、介護予防、意識啓発
- プロジェクト2** 出かけていく場をつくる。～交流・活躍の場づくり
- プロジェクト3** みんなで支える体制をつくる。～医療・福祉の推進体制

### (3) 江田島市都市計画マスタープラン

平成 22 年度(2010 年度)に策定した、江田島市都市計画マスタープラン(終期：令和 7 年度(2025 年度))は、都市づくりのテーマを「みんなで築く魅力ある『海生交流都市』」とし、その実現に向けた土地利用の方針、都市施設の整備方針、市街地の整備・開発・保全方針などを定めています。

将来の都市構造として、江南・飛渡瀬地区を都市拠点と位置づけ、都市機能の集約化と島内の交通結節機能の充実に努めるほか、中央（江田島地域）、中町（能美地域）、高祖・三吉（沖美地域）、大原（大柿地域）を地域拠点として位置づけ、公共公益機能や商業・交流機能、交通結節機能等の充実に努めることとしています。

図 21 江田島市都市計画マスタープラン



### (4) 江田島市観光振興計画

平成 28 年度(2016 年度)に策定した、江田島市観光振興計画(平成 29 年度(2017 年度)～令和 6 年度(2024 年度))は、市の観光客数と観光消費額の増加を図るための基本方針と具体的施策を示しています。

本計画は、プロモーション活動の実施や観光商品の開発のほか、観光客の市内周遊を促進するため、「観光客の利便性を考えた公共交通の見直し」「観光客に使いやすい公共交通ダイヤの情報集約・発信」「利便性向上に向けた取組推進」を行うこととしています。

図 22 江田島市観光振興計画

## 江田島市観光振興計画

～はじめの一歩宣言～

## 5) 受入体制の整備

### (1) 市内周遊を促進させる環境整備

江田島市の観光振興の課題となっているアクセスについては、マイカーやレンタカー、自転車が行きやすい島内の道路整備を進めるとともに、利便性の高い海上及び陸上の公共交通サービスの確保を進めます。また、観光客の島内周遊促進のための施設整備、案内看板整備とともに、観光マップ、観光アプリ等、情報ツールの開発を進めます。

### <プロジェクト>

#### ①アクセス向上プロジェクト

自動車及び自転車の走行が困難な狭隘道路については、一部拡幅する等の道路整備を進め、団体バスの通行経路確保とともに、サイクリングロード整備計画に基づき、「かしま海道サイクリングロード」の整備を進めます。また、海上交通及び陸上交通において、効率的かつ効果的な地域公共交通サービスの提供を図るため、市民や事業者などと協議・調整し、必要な取組や支援を行うとともに、観光客が利用しやすいレンタカーサービス等について検討します。

### <主な事業>

|            | H29～H36                                                                                                   |                                                                  |                                                                  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 道路整備事業     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリングロード整備に伴う拡幅・改修</li> <li>・サイクリングロード整備事業継続</li> </ul>          |                                                                  |                                                                  |
|            | H29～30                                                                                                    | H31～33                                                           | H34～H36                                                          |
| 公共交通の利便性向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の利便性を考えた公共交通の見直し</li> <li>・観光客に使いやすい公共交通ダイヤの情報集約・発信</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性向上に向けた取組推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性向上に向けた取組推進</li> </ul> |

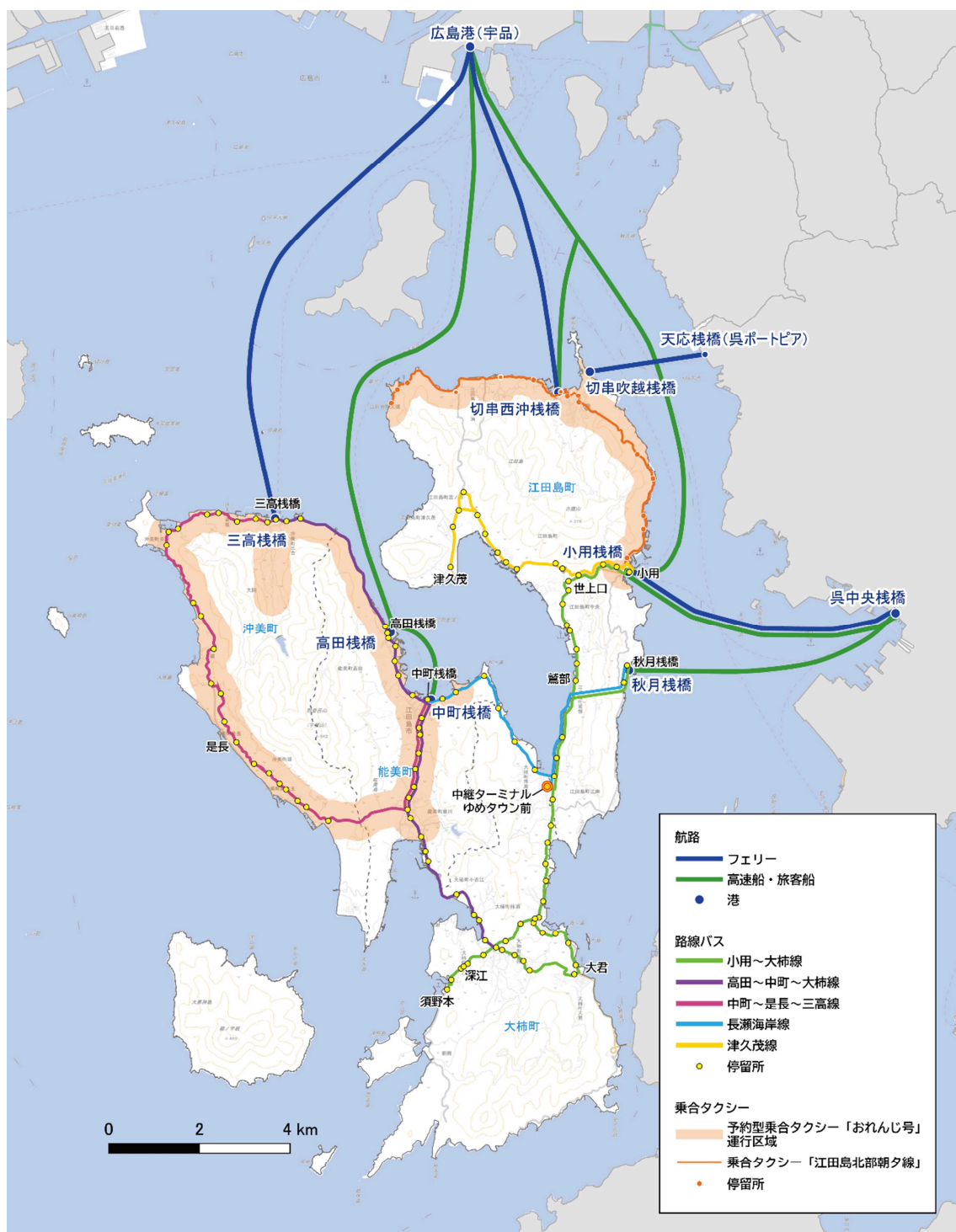
## 第4章 公共交通等の現状

### 4-1 公共交通網

市外へ運航する航路が、広島市との間に4航路、呉市との間に3航路あります。

市内では、江田島バス株式会社が運行する路線バス、江田島市公共交通協議会が運行委託する乗合タクシー（予約型乗合タクシー「おれんじ号」及び乗合タクシー「江田島北部朝夕便」）があります。

図 23 江田島市の公共交通網



出典：地理院タイル(淡色地図)にポイント等を追記して掲載



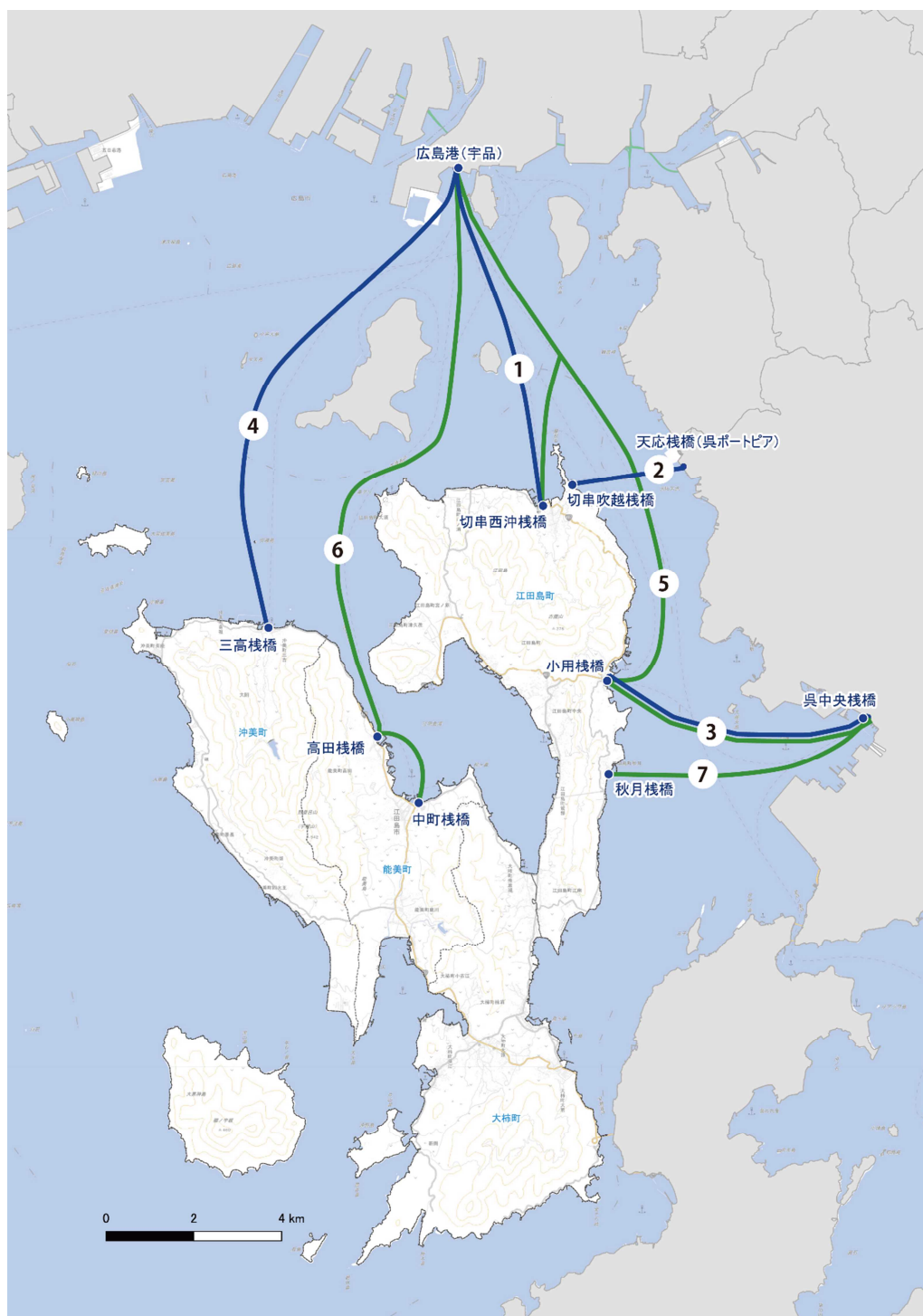
## 4-2 海上交通

### ① 概要

島しょ部にある江田島市は、通勤・通学、通院、買い物などの日常生活において、広島市及び呉市との移動が活発です。このため、江田島市と両市の間を結ぶ航路が重要な移動手段となっています。

航路は、広島市との間に4航路、呉市との間に3航路が運航しており、運航主体は、民間事業者4社と江田島市となっています。

図 24 航路網



出典：地理院タイル(淡色地図)にライン等を追記して掲載



全航路の運航便数は、平日で往復約 130 便、運航時間帯は 5 時台から 23 時台となっています。また、片道運賃は、広島市との間の航路が 470 円～1,080 円、呉市との間の航路が 340 円～560 円となっています。

表 1 航路別運航概要

|   | 航路           | 種別   | 運航主体                              | 便数※1<br>(往復)     | 所要<br>時間※1    | 運航時間帯※1                              | 運賃※2<br>(円)    |
|---|--------------|------|-----------------------------------|------------------|---------------|--------------------------------------|----------------|
| ① | 切串西沖<br>～宇品  | フェリー | 上村汽船<br>株式会社                      | (平土)22<br>(日祝)21 | 約 30 分        | (平土)6:40～22:00<br>(日祝)6:40～21:15     | 470<br>(2,600) |
| ② | 切串吹越<br>～天応  | フェリー | さくら海運<br>株式会社                     | (平土)20<br>(日祝)18 | 12 分          | (平土)5:45～21:19<br>(日祝)6:20～20:34     | 340<br>(1,900) |
| ③ | 小用～呉         | フェリー | 瀬戸内<br>シーライン<br>株式会社              | (毎日)13           | 約 20 分        | 6:25～19:20                           | 400<br>(1,500) |
|   | 小用～呉         | 高速船  | 瀬戸内<br>シーライン<br>株式会社              | (平土)13<br>(日祝)10 | 約 10 分        | (平土)5:50～22:52<br>(日祝)7:09～22:52     | 560            |
| ④ | 三高～宇品        | フェリー | 瀬戸内<br>シーライン<br>株式会社              | (毎日)14           | 約 40 分        | 6:08～21:37                           | 690<br>(2,500) |
| ⑤ | 小用～宇品        | 高速船  | 瀬戸内<br>シーライン<br>株式会社              | (平)20<br>(土日祝)19 | 21 分～<br>28 分 | (平)6:16～22:53<br>(土日祝)<br>6:50～22:53 | 1,080          |
| ⑥ | 中町・高田<br>～宇品 | 高速船  | 江田島市<br>(公設民営)<br>※平成 27 年 10 月から | (平土)20<br>(日祝)18 | 約 30 分        | (平土)5:47～23:10<br>(日祝)6:27～22:10     | 980            |
| ⑦ | 秋月～呉         | 旅客船  | 有限会社<br>バンカー・<br>サブライ             | (平土)4<br>(日祝)運休  | 16 分          | (平土)7:45～18:16                       | 530            |

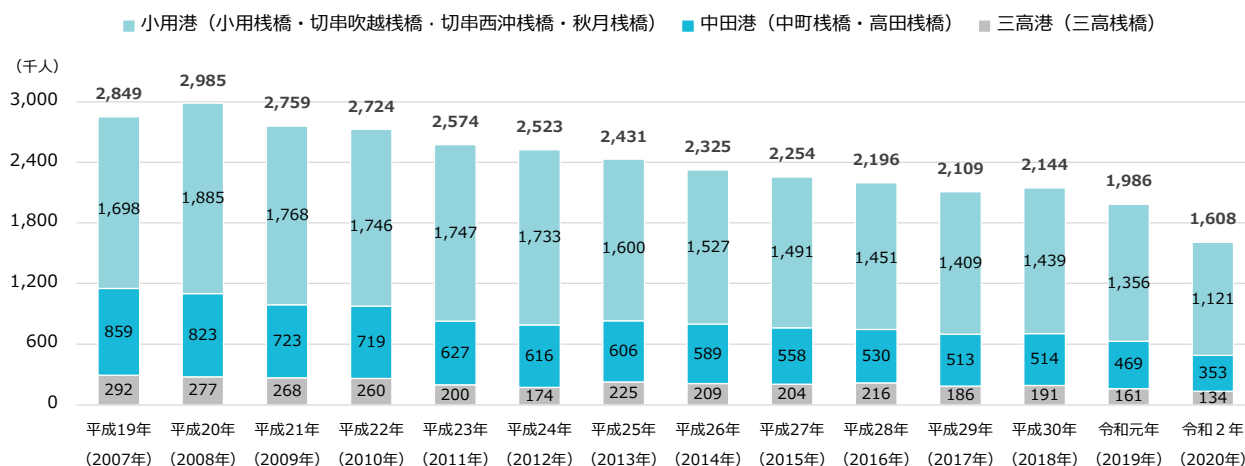
※1 運航便数や運航時間帯、運賃等は令和 3 年 12 月現在。ただし、秋月～呉航路は令和 2 年（2020 年）11 月 16 日～令和 4 年（2022 年）3 月 31 日まで運休中。

※2 ( ) 内は普通車の車両運賃。

## ② 乗降客数

江田島市内の航路の乗降客数は減少傾向にあり、さらに令和2年(2020年)は新型コロナウイルス感染症のまん延により大幅に減少し、平成22年(2010年)と比較すると約41.0%の減少となっています。

図 25 海上交通の乗降客数の推移

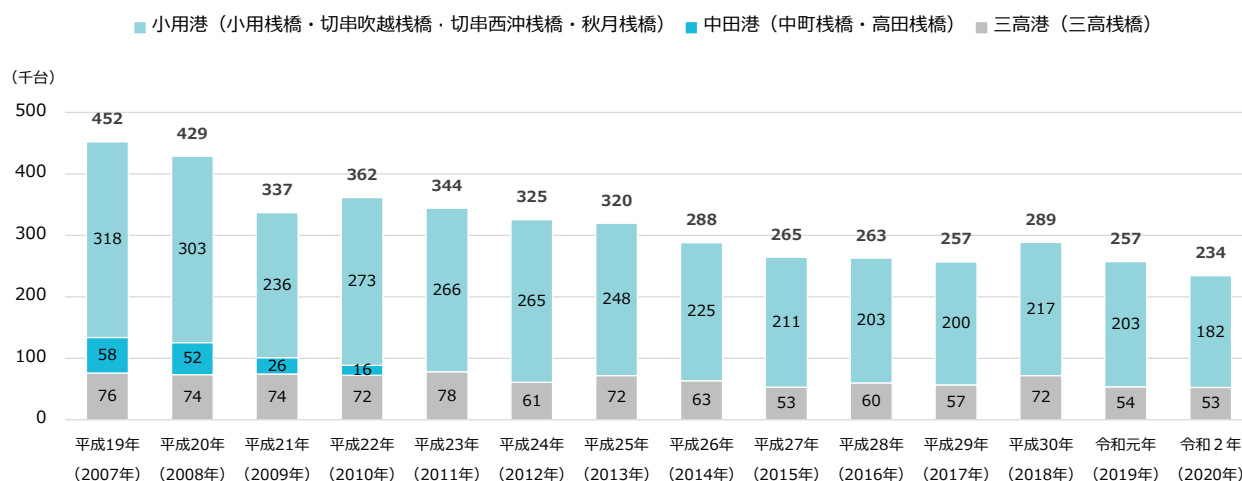


出典：国土交通省 港湾調査

## ③ 自動車航送台数

平成25年(2013年)に警固屋音戸バイパスが開通した影響等に伴い、江田島市のフェリー航路が運送する車両台数は減少傾向にあります。令和2年(2020年)は、新型コロナウイルス感染症のまん延によりさらに減少しています。(なお、航路の集約により、平成22年度から中町～宇品航路のフェリー便は廃止となっています。)

図 26 自動車航送台数の推移 (各栈橋を出入りした車両の総数)



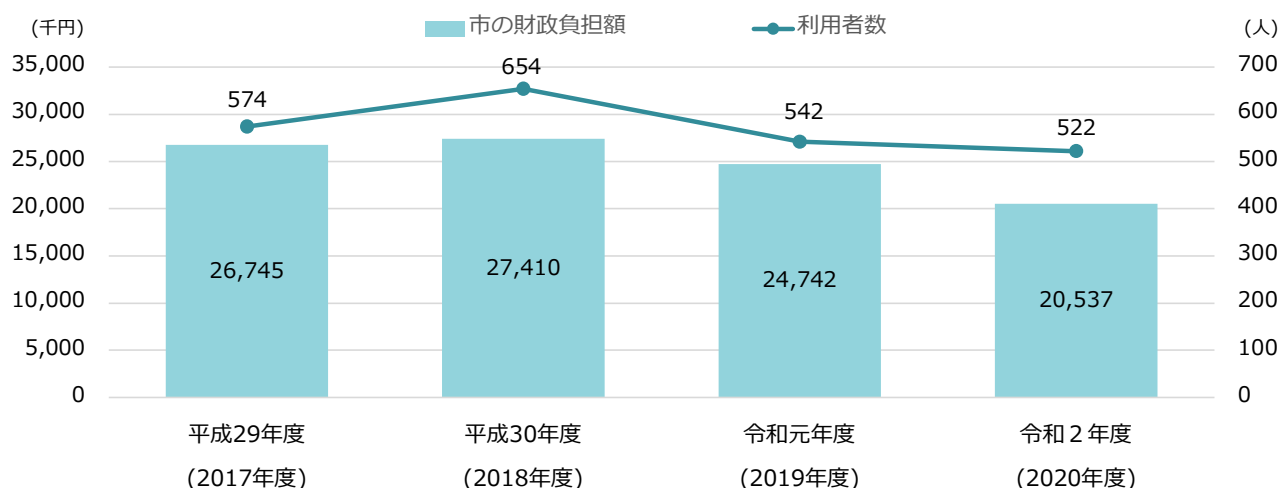
出典：国土交通省・港湾調査

#### ④ 利用促進策の実施状況

航路の利用促進策として、近年以下のような取組を行っています。

| 年 度                   | 取 組                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 29 年度<br>(2017 年度) | ○ 学校の種別や居住地を問わず航路や路線バス等の通学定期の購入額の一部を市が負担する「通学定期券購入補助制度」を創設。                                                                                                                                     |
| 令和 2 年度<br>(2020 年度)  | ○ 上村汽船株式会社及び瀬戸内シーライン株式会社が、運行する航路の発着点の桟橋に、IC カード <sup>3</sup> で決済できるキャッシュレス券売機を設置。<br>○ 上村汽船株式会社及び瀬戸内シーライン株式会社が、船内で活用可能な Free-Wifi <sup>4</sup> を導入。<br>○ 市公共交通協議会の主催事業として、市内航路を対象としたスタンプラリーを実施。 |

図 27 通学定期券購入補助制度の市負担額と利用者数の推移



出典：江田島市 ※利用者数は航路または路線バスの合計、市負担額は航路及び路線バスの合計

図 28 広島港のキャッシュレス券売機



図 29 乗って江田島航路スタンプラリー2021



<sup>3</sup>情報(データ)の記録や演算をするための IC(集積回路)を内蔵しているカード。交通系 IC カードは、繰り返しチャージ(入金)して利用でき、非接触で運賃の決済ができる。

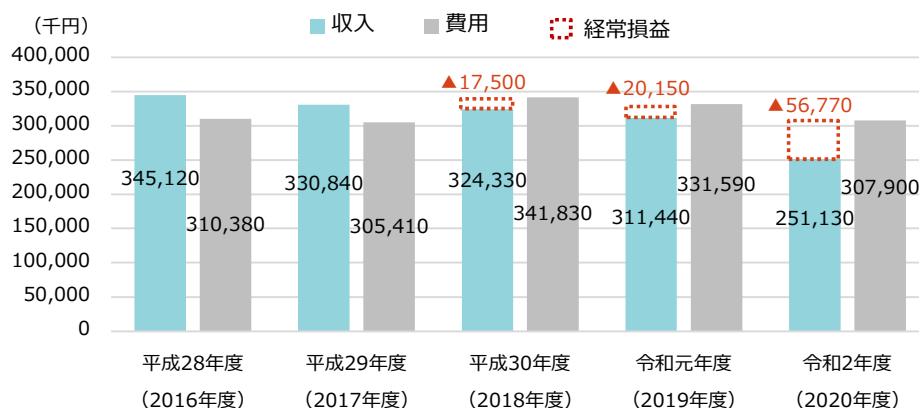
<sup>4</sup> 公共の場所やコンビニの店内等で、誰もが無料でインターネットに無線接続できる仕組み。

## ⑤ 中町・高田～宇品航路の運航収支

市が運航主体である中町・高田～宇品航路は、平成27年度(2015年度)10月に、市企業局による運航から、指定管理者による運航に切り替わりました。その後、経営状況については毎年モニタリングの上で公表しています。当初2期までは黒字運航となったものの、平成30年度(平成29年(2017年)10月からの期)は、再び赤字航路となり、令和2年度(令和元年度(2019年)10月からの期)は、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延とその長期化の影響を受け、大幅な赤字が生じています。

指定管理期間の利用料金については、全額を指定管理者が受領し、市からは指定管理料を支払わない協定内容となっているため、赤字が生じた場合、原則的には指定管理者が吸収しています。令和3年度(令和2年(2020年)10月からの期)は、収支の均衡を目指し、減便や通勤定期・回数券の値上げを行いました。新型コロナウイルス感染症のまん延による需要減を回復できない状況が続いています。新型コロナウイルス感染症のまん延による需要減は、他航路にも生じており、運航事業者の経営に大きな影響を与えていると考えられます。

図30 中町・高田～宇品航路の運航収支

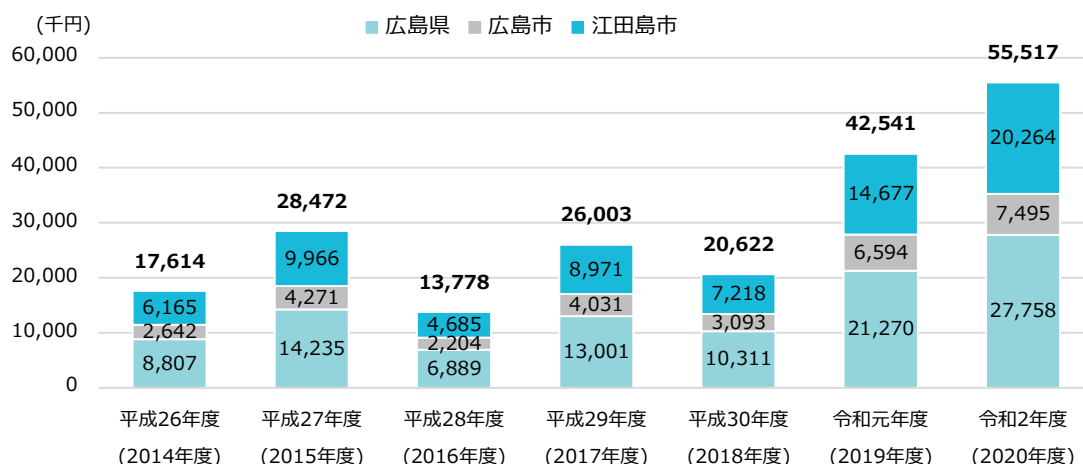


出典：江田島市 ※各年度の期間は前年10月1日から当該年9月30日まで

## ⑥ 航路の維持・確保に係る公的負担額

江田島市にかかる航路は、国の航路運航補助制度である「離島航路運営費等補助金」の対象となりません。このため、広島県の航路運航補助制度である「広島県生活航路維持確保対策事業」で、補助対象航路の支援を行っています。事業者からの補助申請がある三高～宇品航路の運航赤字に対し、広島県・広島市・江田島市の3者で協調補助を行っています。

図31 三高～宇品航路に対する補助金額の推移



出典：江田島市 ※各年度の期間は前年10月1日から当該年9月30日まで



## 4-3 陸上交通

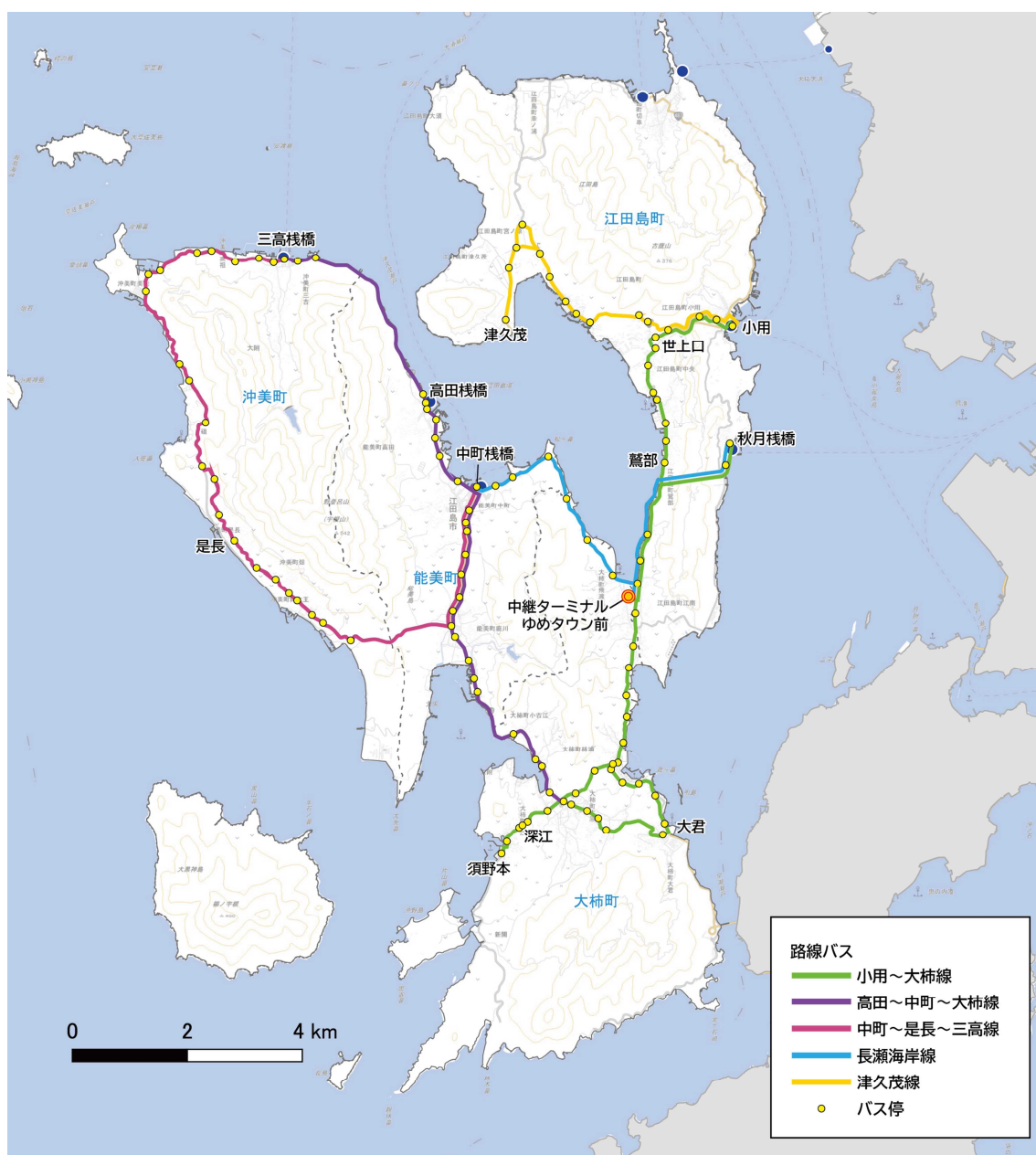
### (1) 路線バス

#### ① 概要

江田島市内の路線バスは、第三セクター<sup>5</sup>の江田島バス株式会社 1 社が 5 路線 29 系統を車両 15 台で運行しています。

江田島市都市計画マスタープランで都市拠点と位置付けられている江南・飛渡瀬地区は、大型商業施設が集積しており、かつ、Y 字型の島の左右の付け根に位置していることから、バスの中継ターミナルが設けられています。

図 32 路線バス網（2021 年 12 月時点）



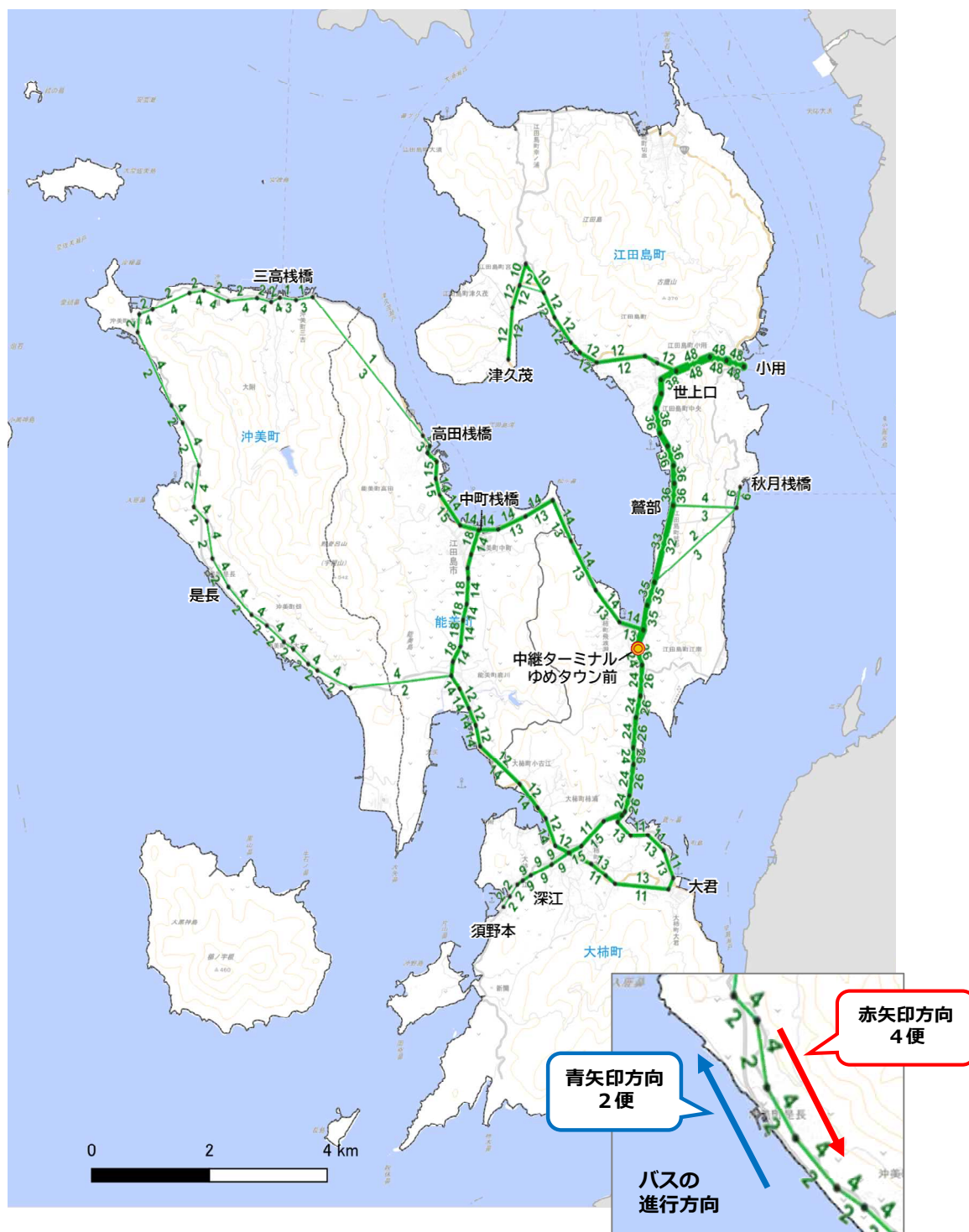
出典：地理院タイル（淡色地図）にライン等を追記して掲載

<sup>5</sup> 日本国政府または地方公共団体(第一セクター)が、民間企業(第二セクター)と共同出資により設立した法人。国や地方公共団体と民間が合同で出資・経営する企業。

## ② 路線バスのサービス水準

各バス停間の平日 1 日の運行便数は、小用から中継ターミナルゆめタウン前を經由して大柿に至る区間の運行便数が最も多くなっています。

図 33 路線バスの平日区間別運行便数（2021 年 12 月時点）



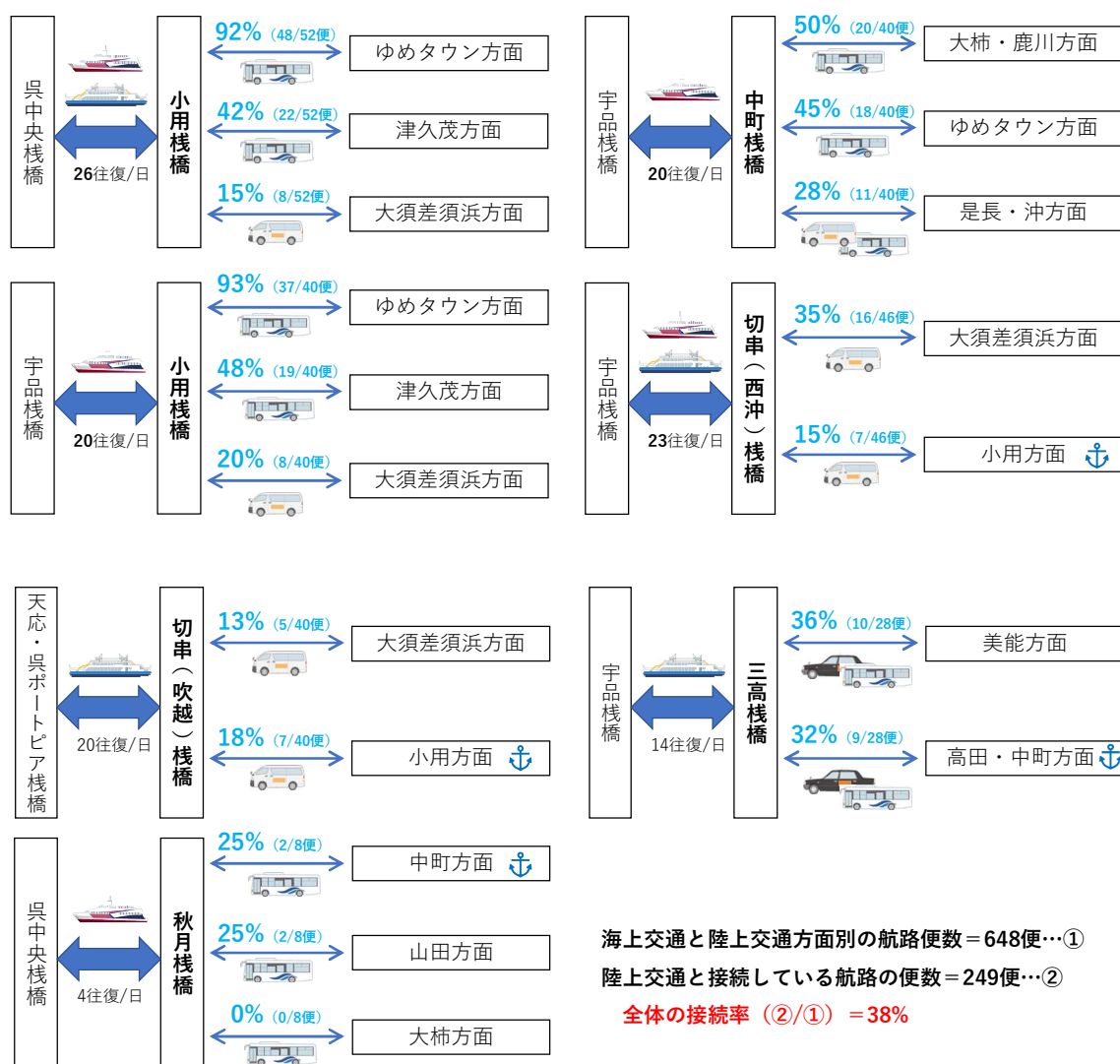
出典：地理院タイル（淡色地図）にライン等を追記して掲載

### ③ 航路との接続状況

江田島市は、定期航路の栈橋が重要な交通結節点となるため、船との接続に配慮した路線・ダイヤ編成が必要となりますが、異なる2つの栈橋をつなぐ系統においては、両方の栈橋で航路とダイヤを合わせることが難しく、一方の栈橋では航路との接続が図りづらい状況となっています。

令和3年12月時点における各航路の陸上交通における25分以内の接続率は、各栈橋・各方面毎で以下のとおりとなっており、全体の接続率は38%となっています。

図 34 各航路の陸上交通 25 分以内接続率（2021 年 12 月時点における平日運行便数）



凡 例

フェリー 高速船・旅客船 路線バス 乗合タクシー 栈橋を含む方面

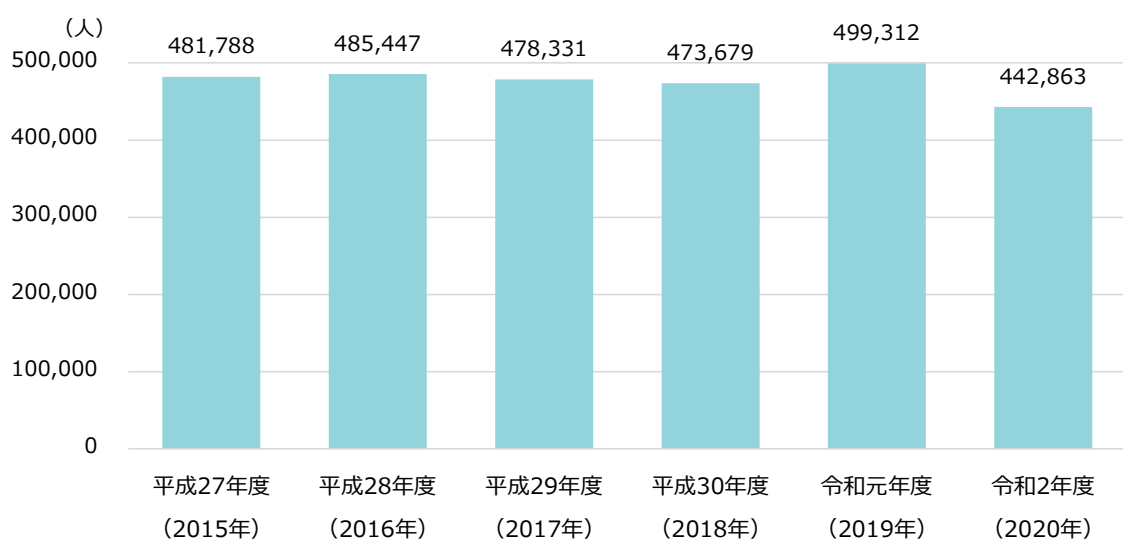
#### ④ 利用者数

近年の路線バスの乗降客数は概ね 47 万～49 万人台で推移しています。しかし、令和 2 年度（2020 年度）は、新型コロナウイルス感染症のまん延により乗降客数は減少しています。

路線バスの時間帯別・利用属性別の利用者数によると、朝夕の時間帯は主に通学や通勤等に利用されています。学校統合後の通学支援及び中学校生徒遠距離通学支援として小中学生に対し路線バス定期券が支給されており、市は年間 12,000 千円台～14,000 千円台を支出しています。また、平成 29 年（2017 年）に創設された「通学定期券購入補助制度」は、学校の種別や居住地を問わず航路や路線バス等の通学定期の購入額の一部を市が負担する制度で、路線バスに関しては年間 1,000 千円前後を支出しています。

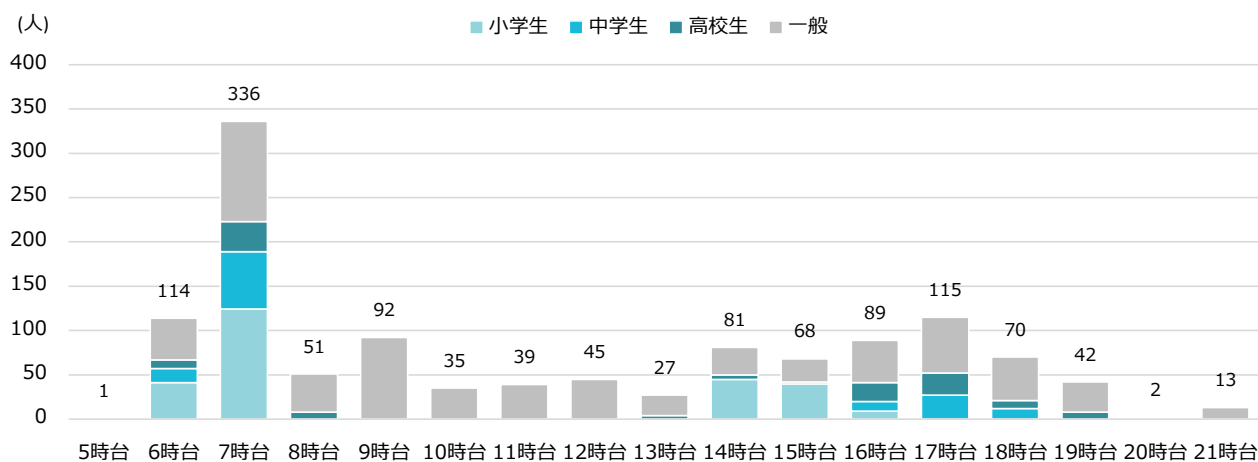
平日の区間別通過人員を見ると、小用～中継ターミナルゆめタウン前の区間が最も多く、秋月方面や三高方面、深江～須野本等の区間において、利用が少なくなっています。

図 35 路線バスの利用者数の推移



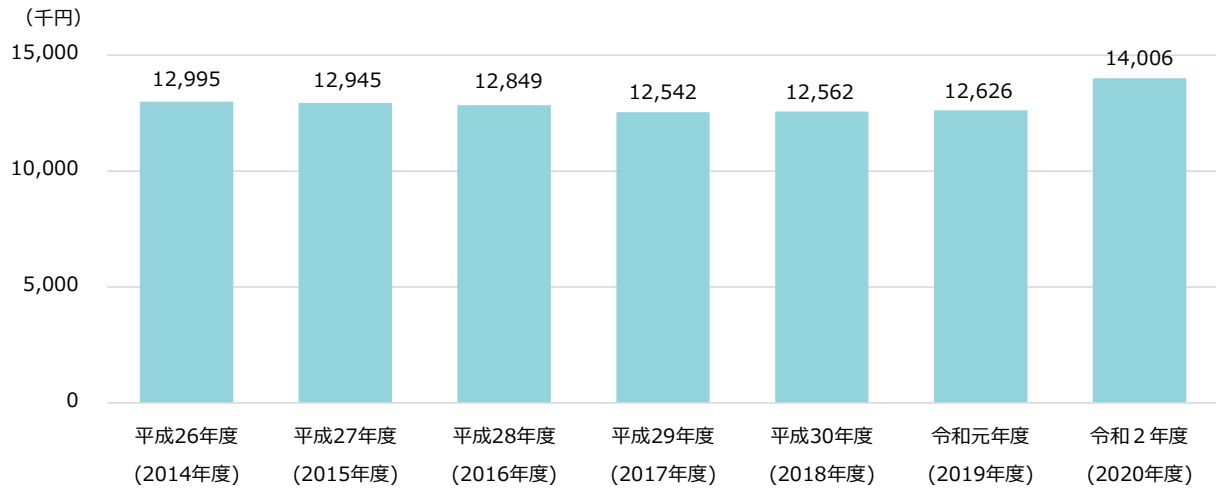
※各年度の期間は前年 10 月 1 日から当該年 9 月 30 日まで 出典：江田島バス株式会社

図 36 路線バスの時間帯別・利用属性別利用者数



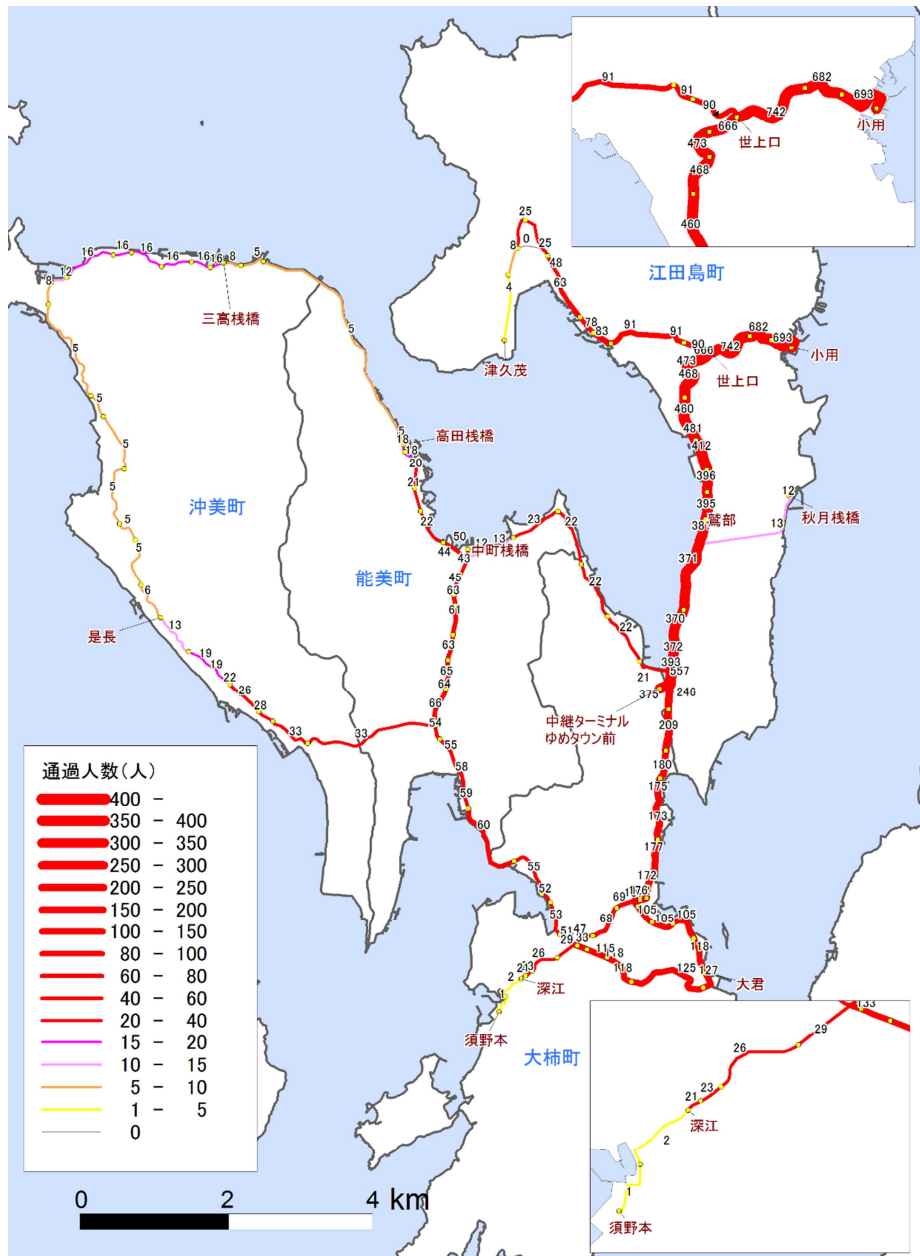
出典：江田島バス株式会社乗降調査（2021 年 6 月の平日に実施）

図 37 小中学生に対する路線バス定期代補助の推移



出典：江田島市

図 38 路線バスの平日区間別通過人員



出典：江田島バス株式会社乗降調査（2021年6月の平日に実施）



## ⑤ 利用促進策の実施状況

路線バスの利用促進策として、近年以下のような取組を行っています。

| 年 度                   | 取 組                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 29 年度<br>(2017 年度) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ バスの運行状況がスマートフォン等で把握できるバスロケーションシステム<sup>6</sup>を導入するとともに、市内の桟橋及び大型商業施設にも、運行状況が表示されるデジタルサイネージ<sup>7</sup>を導入。</li> <li>○ バス車両の更新時に、バリアフリー車両<sup>8</sup>への転換等を実施。</li> </ul> |
| 平成 30 年度<br>(2018 年度) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自治会を対象としたバスの乗り方教室を開催。</li> </ul>                                                                                                                                          |
| 令和元年度<br>(2019 年度)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 路線バスに交通系 IC カード PASPY<sup>9</sup>を導入。</li> <li>○ 江田島バス株式会社本社が、中継ターミナルゆめタウン前バス停近くへ移転したことにより、定期券・回数券等購入の利便性が向上。</li> </ul>                                                  |
| 令和 2 年度<br>(2020 年度)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 路線バスが 24 時間乗り放題になるデジタルチケットの販売を開始するとともに、江田島バス株式会社 HP にバスを利用した観光周遊コースを掲載。</li> <li>○ 路線バスダイヤ等の情報を GTFS<sup>10</sup>データ化し、公開。</li> </ul>                                     |
| 令和 3 年度<br>(2021 年度)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 路線バスや乗合タクシーに無料で乗車できる「おでかけ無料乗車 day」を実施。</li> </ul>                                                                                                                         |

図 39 バスロケーションシステムのスマートフォン画面及び桟橋に設置しているサイネージ

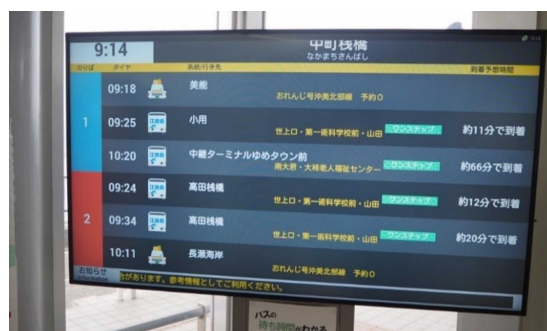


図 40 バスの乗り方教室



図 41 交通系 IC カード PASPY



図 42 24 時間バスデジタルチケット



<sup>6</sup> バスに車載器を搭載し、GPS などを利用して車両の位置情報を運行管理者が把握するとともに、バス利用客にスマートフォンやパソコンを通してバス運行状況の情報を提供するシステム。

<sup>7</sup> 「電子看板」とも呼ばれ、交通機関の運行状況など刻々と変化する情報等、映像や文字を表示する情報・広告媒体。

<sup>8</sup> 乗降口に段差のないノンステップバスや、リフト・スロープ付バスなど、誰もが乗降しやすい車両のこと。

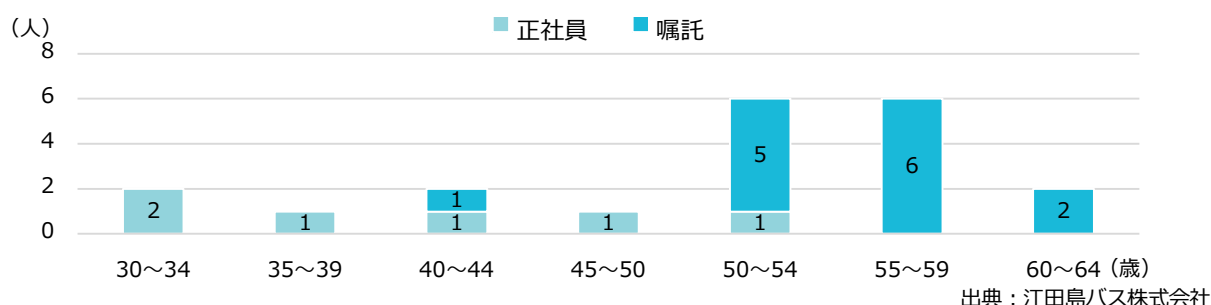
<sup>9</sup> 広島地区の鉄軌道（広島電鉄・広島高速交通）・バス事業者等で導入されている非接触型 IC カードの名称。

<sup>10</sup> General Transit Feed Specification の略称。交通事業者と経路検索等の情報利用者との情報の受け渡しのための共通フォーマット。

## ⑥ 運転士確保に係る状況

現時点では人員不足等の問題は起こっていないものの、運転士の年齢構成は60歳以上に偏る傾向にあり、運転士の高齢化が進んでいます。

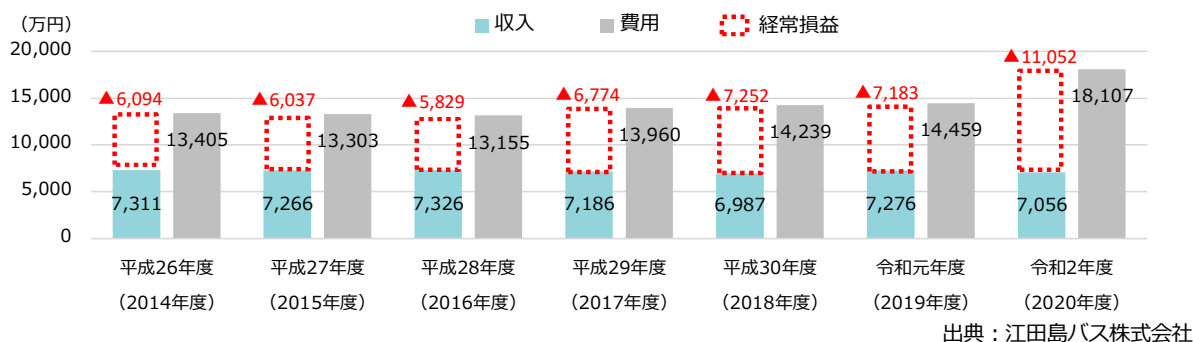
図 43 江田島バス株式会社の乗合バス事業の運転士年齢構成(2021年8月31日時点)



## ⑦ 路線バス乗合事業の収支状況

収入と費用の差（経常損益）は年々増加しており、特に令和2年度（2020年度）は費用が大きく増加するとともに収入も減少し、1億円以上の赤字となりました。

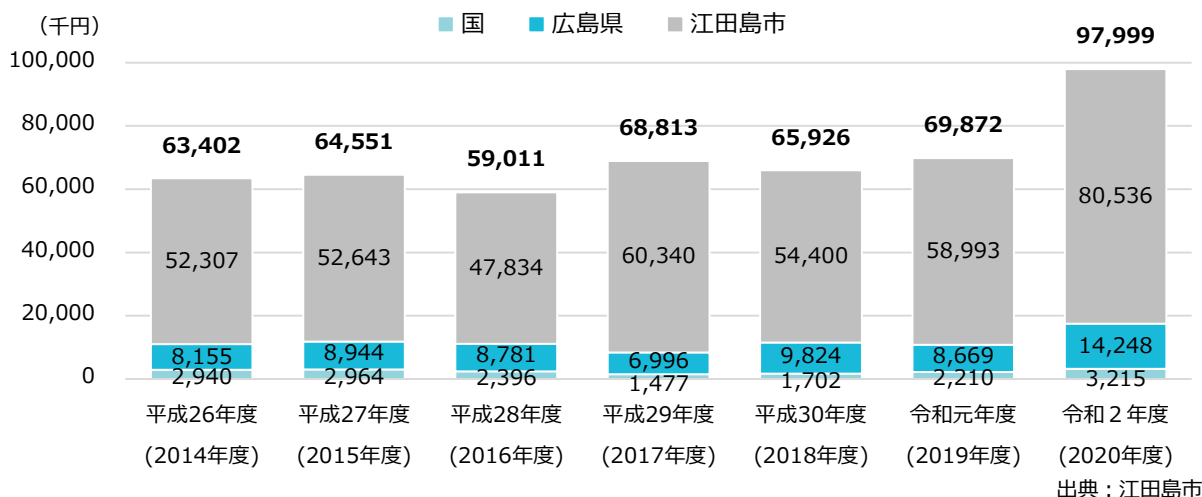
図 44 江田島バス株式会社の乗合事業の収支状況



## ⑧ 路線バスの維持・確保に係る公的負担額

路線バスに対して、国・広島県・江田島市が協調して路線運行により生じた赤字に対する補助を行っています。補助金額は年間60,000千円台で推移していましたが、令和2年度(2020年)は新型コロナウイルス感染症のまん延により利用者が減少などにより、約98,000千円へと大幅に増加しています。なお、全額が江田島バス株式会社への支出となっています。

図 45 路線バスに対する補助金額の推移



## (2) 乗合タクシー

### ① 概要

バス路線から離れている地域や、路線バスが運行しない時間帯の移動手段を確保するため、予約型乗合タクシー「おれんじ号」、定時定路線で運行する乗合タクシー「江田島北部朝夕便」を運行しています。

予約型乗合タクシー「おれんじ号」は一般乗合旅客自動車運送事業の区域運行、乗合タクシー「江田島北部朝夕便」は路線定期運行となっており、ともに運営主体である江田島市公共交通協議会がタクシー事業者に運行を委託しています。

予約型乗合タクシー「おれんじ号」は、沖美町の西回り線である「沖美南部線」（三高栈橋～是長～中町栈橋～島の病院おおたに）、沖美町の東回り線である「沖美北部線」（美能～三高栈橋～中町栈橋～島の病院おおたに）、江田島町北部を運行する「江田島北部線」の3路線があります。

予約型乗合タクシー「おれんじ号」及び乗合タクシー「江田島北部朝夕便」は、航路・路線バスといった幹線交通との結節を目的とする交通モードであるため、可能な限り乗継に配慮したダイヤ編成となっています。

図 46 乗合タクシー路線網



出典：地理院タイル(淡色地図)にポイント等を追記して掲載

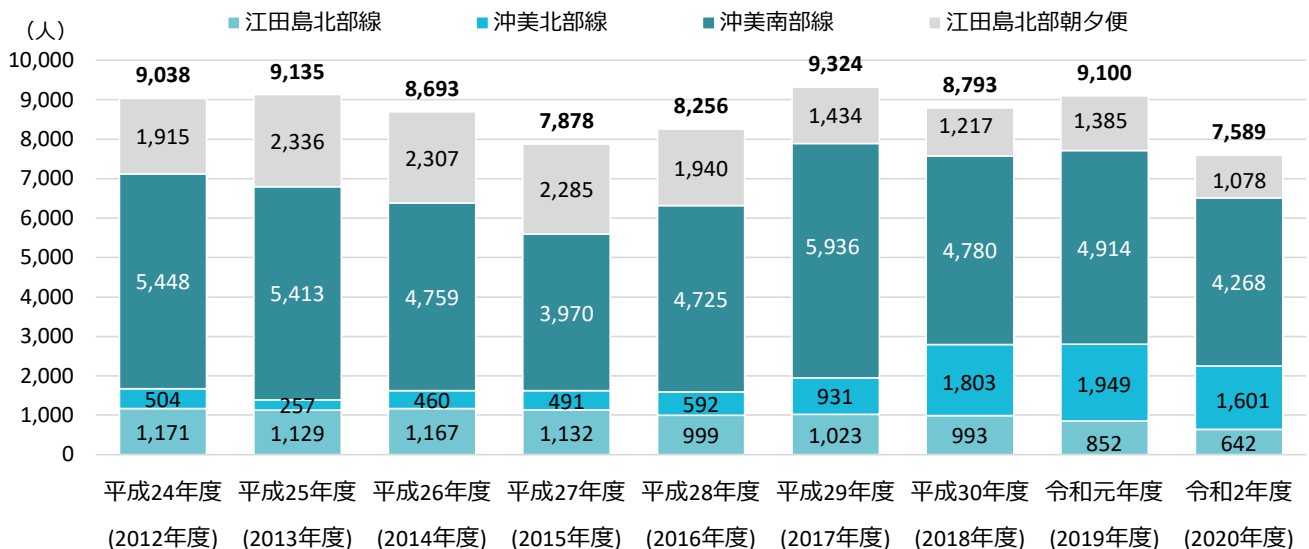
表 2 乗合タクシーの運行概要

| 種別            | 路線名      | 運行曜日                      | 運行便数<br>(片道 0.5 便) | 運行時間                               | 運賃            |
|---------------|----------|---------------------------|--------------------|------------------------------------|---------------|
| 予約型<br>乗合タクシー | 江田島北部線   | 月・水・金<br>(祝祭日・年<br>末年始運休) | 5.0                | 小用方面 8:17-15:28<br>大須方面 8:37-16:23 | 1 乗車<br>300 円 |
|               | 沖美北部線    |                           | 4.0                | 中町方面 8:40-13:58<br>美能方面 9:15-14:54 |               |
|               | 沖美南部線    | 月～土<br>(祝祭日・年<br>末年始運休)   | 4.5                | 中町方面 7:55-15:35<br>三吉方面 7:24-16:32 |               |
| 乗合タクシー        | 江田島北部朝夕便 | 毎日                        | 3.0                | 小用方面 6:15-18:03<br>大須方面 6:45-19:25 | 1 乗車<br>200 円 |

## ② 利用者数

「江田島北部線」「江田島北部朝夕便」の乗降客数は、減少傾向で推移しています。一方、「沖美南部線」「沖美北部線」は、ダイヤ・経路変更により乗降客数が増加に転じた年もあり、明らかな減少傾向は見られません。しかし、令和2年度(2020年度)は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、全路線で乗降客数の減少が生じています。

図 47 乗合タクシーの利用者数の推移



出典：江田島市

### ③ 利用促進策の実施状況

乗合タクシーの利用促進策として、近年以下のような取組を行っています。

- 平成 28 年度(2016 年度)に、ハイエース車両を、手すり・電動ステップを搭載したバリアフリー車両に更新。
- 令和 3 年度（2021 年度）に、路線バスや乗合タクシーに無料で乗車できる「おでかけ無料乗車 day」を実施。
- 地元自治会と調整しながら、路線バスや航路のダイヤ改正に合わせて、ダイヤ見直しを実施。
- 乗合タクシーの収支状況の説明や利用促進に関する出前講座を実施。

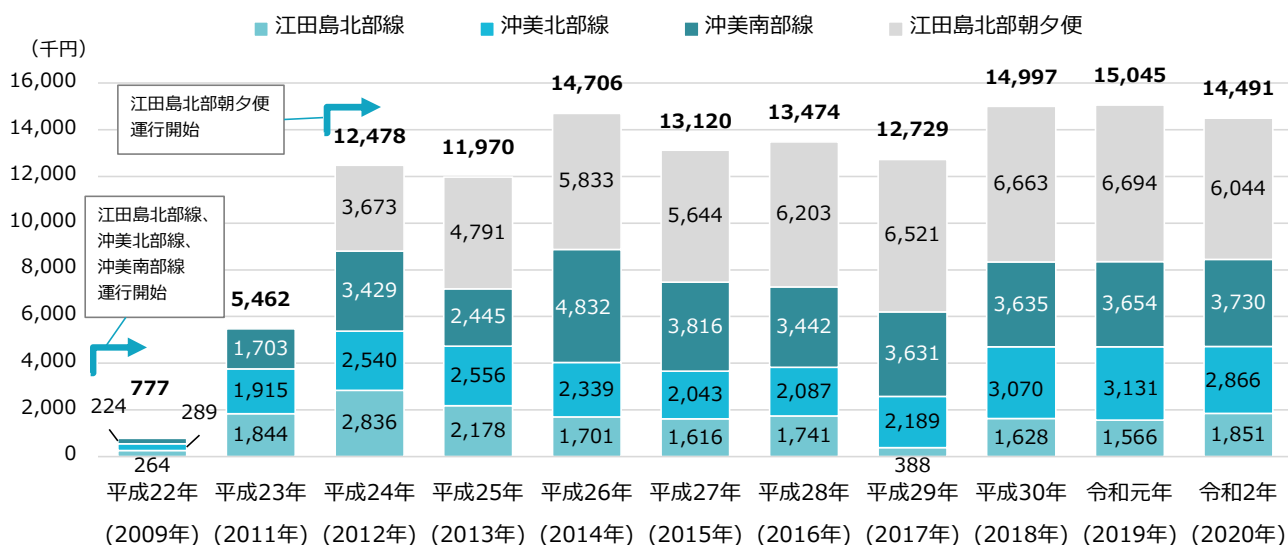
図 48 乗合タクシーの車両



### ④ 乗合タクシーの維持・確保に係る公的負担額

効率性・利便性を向上させるため、地域と協議しながら便数・ダイヤの改正を随時行っていますが、路線バスの採算が見込めず路線バスが運行していない地域・時間帯において補完的に運行している特性上、全路線が赤字となっており、特に「江田島北部朝夕便」の赤字額が多い状況にあります。赤字は国と江田島市が負担しており、江田島市の負担額は 14,000 千円前後で推移しています。

図 49 乗合タクシーに対する市の負担額の推移



出典：江田島市

※市負担額は、委託費から国補助金を除いた金額



### (3) タクシー・介護タクシー

江田島市内で一般タクシーとして許可を受けている事業者は7社、福祉輸送の許可を受けている事業者は4社です。

江田島市全域が、市内タクシー営業所半径5km圏域（概ね30分以内到達範囲）に含まれており、全域がカバーされています。

図 50 江田島市のタクシー・介護タクシー



出典：地理院タイル(淡色地図)にポイント等を追記して掲載

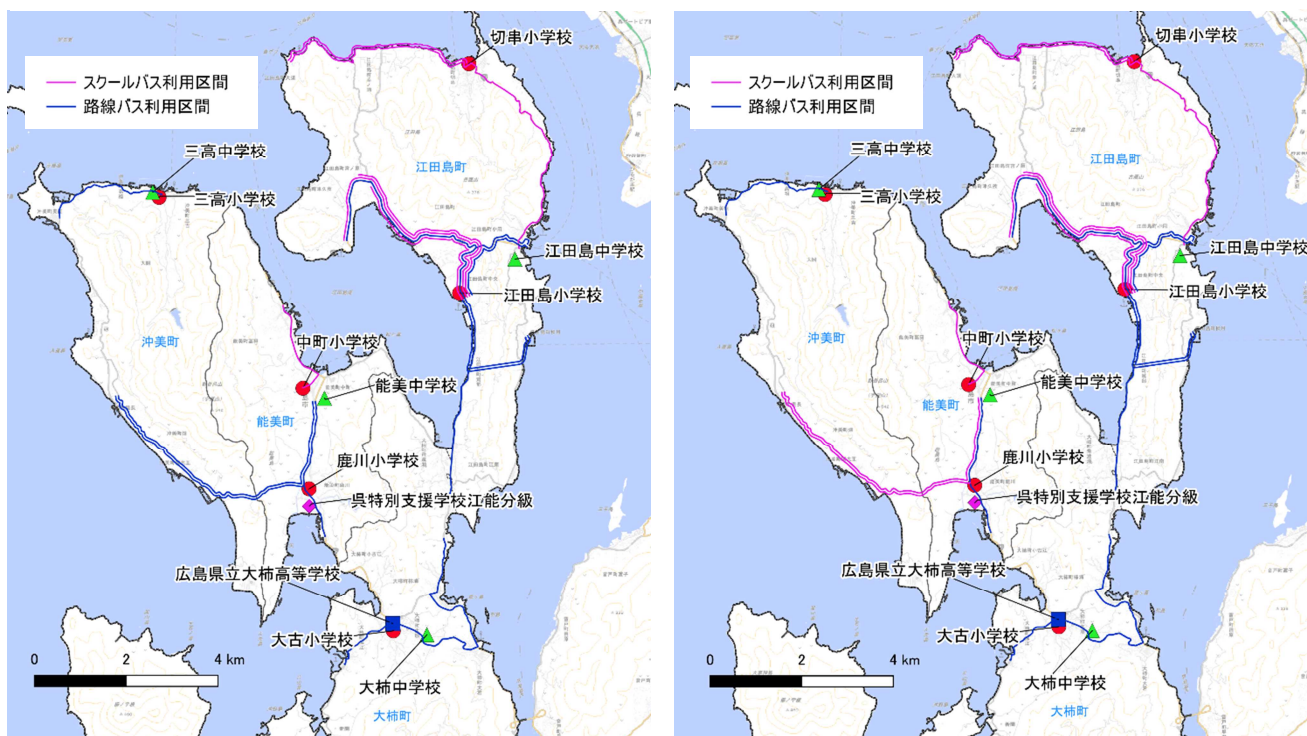
## (4) スクールバス

### ① 概要

江田島市は、片道2 km 以上かつ路線バスの利用ができない遠距離通学の小中学校の児童生徒に対し、運行事業者への業務委託により、スクールバスを運行しています。

小中学校を合わせると、令和2年度（2020年度）のスクールバス利用者は150人となっています。

図 51 登下校時のスクールバス・路線バス定期代補助利用区間(左：登校、右：下校)

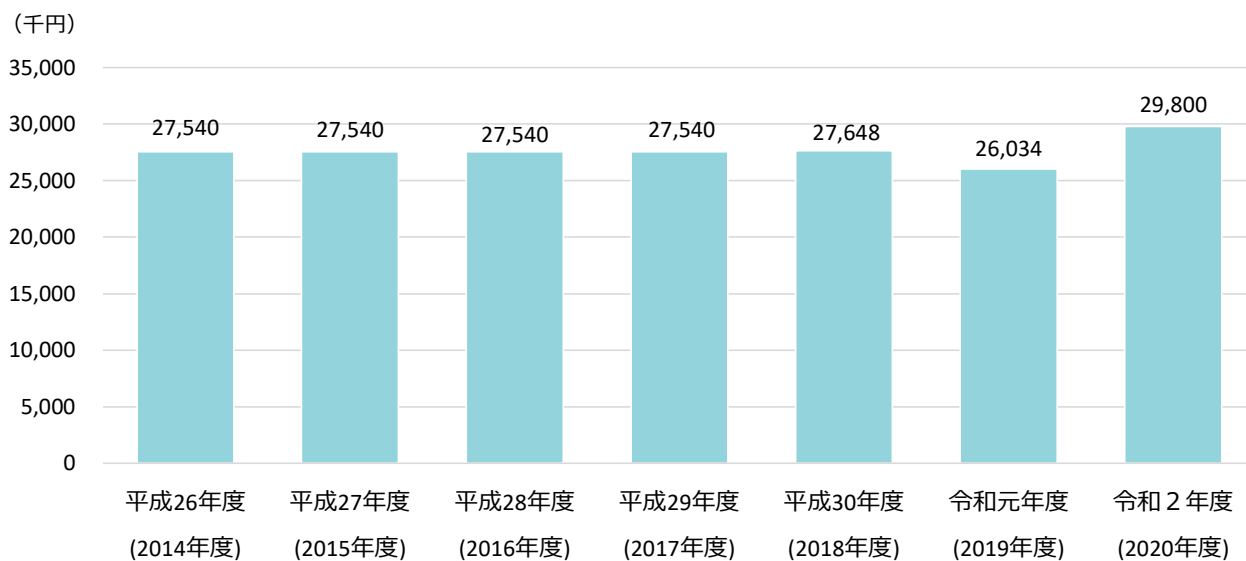


出典：地理院タイル(淡色地図)にポイント等を追記して掲載

### ② スクールバスに係る公的負担額

小中学校の児童生徒に対するスクールバスの運行費用は、27,000 千円前後で推移しています。

図 52 スクールバス運行委託費の推移



出典：江田島市

## (5) カーシェア

ダイハツ広島販売株式会社が、カーシェア<sup>11</sup>ステーション（トヨタシェア(ダイハツステーション)）を桟橋と宿泊施設の4カ所に計5台設置しています。

表3 カーシェアの配置状況（令和4年（2022年）1月現在）

| 場所                  | 設置台数 |
|---------------------|------|
| 小用桟橋                | 1台   |
| 中町桟橋                | 2台   |
| Uminos Spa & Resort | 1台   |
| ホテルご安航              | 1台   |

図53 カーシェアステーション（中町桟橋）



## (6) レンタサイクル

江田島市観光協会が、観光二次交通<sup>12</sup>としてレンタサイクルの貸出を行っています。

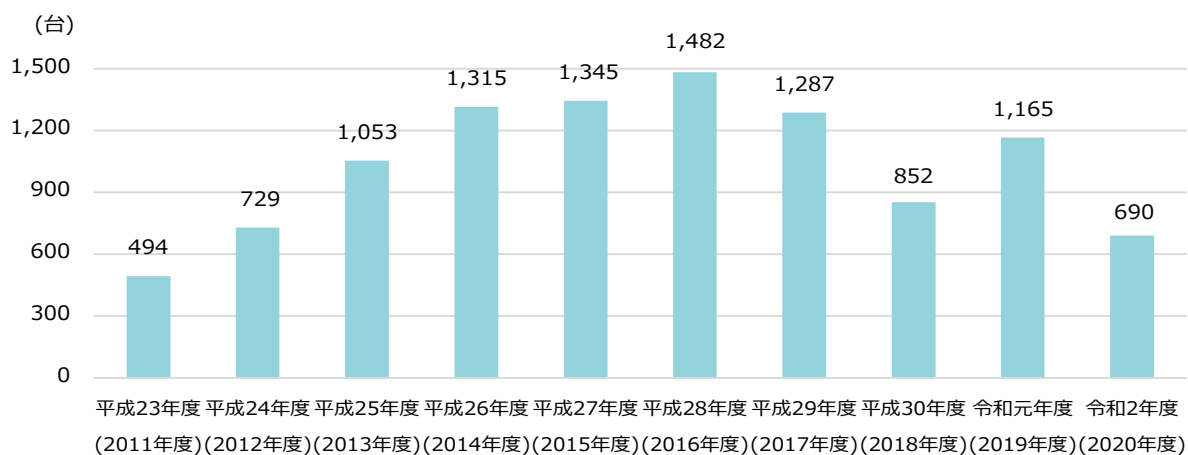
表4 レンタサイクルの配置状況（令和4年（2022年）1月時点）

| 場所                  | 設置台数 |
|---------------------|------|
| 小用桟橋                | 13台  |
| 中町桟橋                | 7台   |
| 三高桟橋                | 8台   |
| 切串西沖桟橋              | 7台   |
| Uminos Spa & Resort | 4台   |
| 江田島荘                | 4台   |
| ふるさと交流館             | 5台   |

図54 レンタサイクル（三高桟橋）



図55 レンタサイクルの利用台数の推移



<sup>11</sup> サービス運営会社に登録を行った会員が、会社の所有する自動車を他の会員と共同使用するサービスないしはシステムのこと。

<sup>12</sup> 主要の鉄道駅や港等から観光地までの交通、交通手段の事。

#### 4-4 移動手段確保に係る行政負担額の推移

江田島市における公共交通等に関連する行政負担額は、運航(行)赤字の拡大、通学定期券購入補助制度の創設、新型コロナウイルス感染症に対応するための交通事業者への補助などにより増加傾向にあり、近年は2億円を超過しています。

図 56 公共交通等の維持確保に関する行政負担額の推移

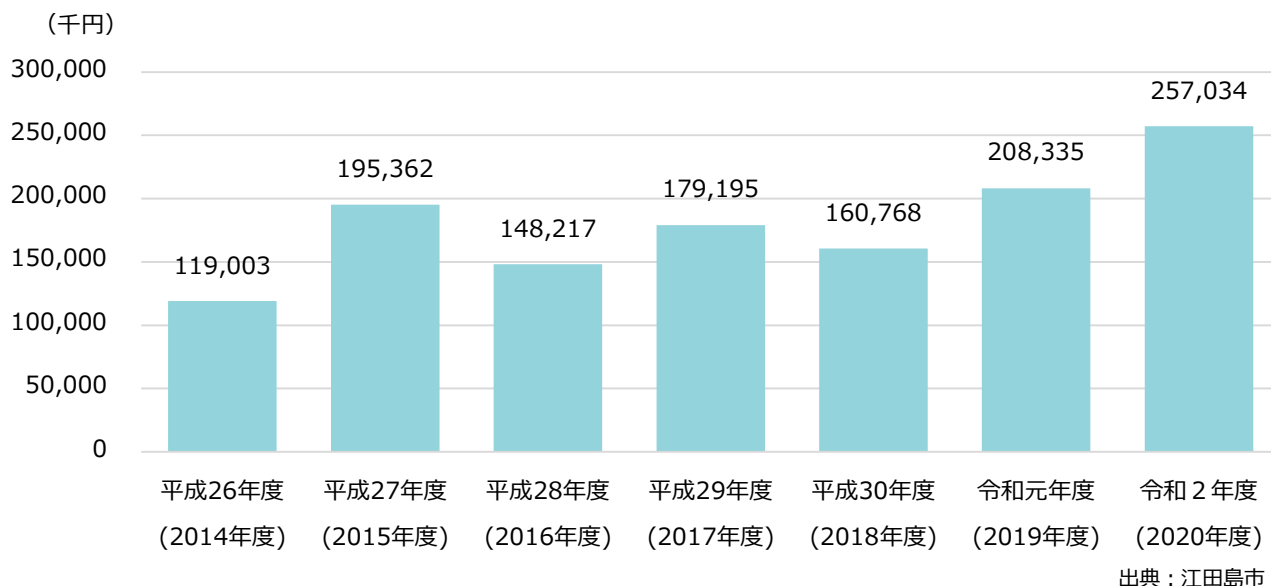


表 5 公共交通等の維持確保に関する行政負担の内訳

(千円)

|                 | 平成 26 年度<br>(2014 年度) | 平成 27 年度<br>(2015 年度) | 平成 28 年度<br>(2016 年度) | 平成 29 年度<br>(2017 年度) | 平成 30 年度<br>(2018 年度) | 令和元年度<br>(2019 年度) | 令和 2 年度<br>(2020 年度) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|----------------------|
| 航路運航への補助        | 6,165                 | 9,966                 | 4,685                 | 8,971                 | 7,218                 | 14,677             | 20,264               |
| 路線バス運行への補助      | 52,307                | 52,643                | 47,834                | 60,340                | 54,400                | 58,993             | 80,536               |
| 乗合タクシー運行委託費     | 14,706                | 13,120                | 13,474                | 12,729                | 14,997                | 15,045             | 14,491               |
| スクールバス運行委託費     | 27,540                | 27,540                | 27,540                | 27,540                | 27,648                | 26,034             | 29,800               |
| 小中学生通学支援策       | 12,995                | 12,945                | 12,849                | 12,542                | 12,562                | 12,626             | 14,006               |
| 通学定期券購入補助       | —                     | —                     | —                     | 26,745                | 27,410                | 24,742             | 20,537               |
| 交通事業特別会計における歳出※ | —                     | 56,244                | 22,643                | 1,236                 | 1,599                 | 14,617             | 10,500               |
| 新型コロナウイルス対応     | —                     | —                     | —                     | —                     | —                     | —                  | 42,503               |
| その他関連事業         | 7,131                 | 25,233                | 20,995                | 32,710                | 17,523                | 44,177             | 27,113               |
| 計               | 120,844               | 197,691               | 150,020               | 182,813               | 163,357               | 210,911            | 259,750              |

出典：江田島市

※中町・高田～宇品航路の所有船舶の維持・管理費等。平成 27 年度(2015 年度)の交通事業特別会計における歳出は、企業局交通事業の清算余剰金として一般会計に繰出した 61,000 千円を除いた額とした。



## 4-5 市民・来訪者の移動に係る現状

令和3年(2021年)7月～9月に、問題意識を把握するために交通事業者に対して実施したヒアリング調査では、新型コロナウイルス感染症の影響等による利用者の減少で厳しい経営状況にあることや、運航(行)の担い手となる人材の高齢化と確保の困難さが浮き彫りとなりました。

表6 交通事業者を対象としたヒアリング結果

|                   |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 利用実態・経営状況等        | 航路事業者       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通勤・通学、通院、海上自衛隊第1術科学校への見学等に利用されている。朝夕の利用が多い。</li> <li>● 所有船舶が老朽化しているが、経営状況が厳しいため、更新の目処が立たない。</li> <li>● 船員が不足している状況ではないが、江田島市内で新たな担い手を確保するのは、どこも厳しい状況である。</li> </ul>                                                                                                         |
|                   | バス事業者       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 少子高齢化に伴う人口減少等により、利用者数は微減傾向。</li> <li>● 市外への通勤・通学や市内小中学校の通学に利用されている。</li> <li>● 利用の多い区間は、小用～第1術科学校前、小用～江田島小学校前。</li> <li>● 朝夕は通勤・通学利用が多く、日中は通院・買い物利用(特に各地区からゆめタウンまでの利用)が多い。</li> <li>● 運転士の高齢化が進んでいるため、計画的に新規採用を行う予定。</li> <li>● 乗務員数と車両数の適正化を図りながら、固定費を削減していく予定。</li> </ul> |
|                   | 乗合タクシー運行事業者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化(入院や施設入所等)により利用者は、減少傾向。</li> <li>● 市内での通院に利用されるほか、船に乗り換えて広島市及び呉市への通院のため、栈橋までの区間に利用されている。</li> </ul>                                                                                                                                                                      |
|                   | タクシー事業者     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通院・買い物等に利用されており、午前中の利用が多い。</li> <li>● 運転士が高齢化しており、業界全体として運転士の確保が問題となっている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                        |
| 新型コロナウイルス感染症による影響 | 航路事業者       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 在宅勤務や休校、市外への通院控えやイベントの減少等の影響により、利用が対前年比で約20%減少している。</li> <li>● 団体利用(江田島青少年交流の家等)も減少している。</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
|                   | バス事業者       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 路線バスの定期外利用の収入は、約10%程度減少。定期利用の収入は人口減少による減少割合と同程度の減少にとどまった。</li> <li>● 貸切事業は、江田島青少年交流の家への課外授業の減少等により、令和2年度の運送収入は対前年比で約50%減少した。</li> </ul>                                                                                                                                     |
|                   | 乗合タクシー運行事業者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 薬の受け取りを薬局からの郵送に変えたり、薬を一度にまとめてもらう等の運用で、広島方面の通院頻度を落とす人が増えた。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                        |
|                   | タクシー事業者     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジネス客、海上自衛隊第1術科学校の見学、飲み会利用等が減り、利用が対前年比で約40%減少した。</li> <li>● 船からタクシーに乗り継いで利用する人も減っている。</li> </ul>                                                                                                                                                                            |



市民・関係機関に対して実施したヒアリング調査では、既存の公共交通サービスだけでは移動に困る人がいることや、観光客等の来訪者にとってわかりやすい情報提供となっていないことなどが把握できました。

表 7 市民・関係機関を対象としたヒアリング調査結果

|          |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 通院<br>買物 | 市民・<br>関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域によっては、バスが 1 日に数本しかなく、とても不便。特に 11:00～14:00 等、買い物の帰りに必要な時間帯にバスがない。</li> <li>● 通院とバスの時間帯が合わない。</li> <li>● 足が悪く、家の前が急な坂でバス停まで行くことができない人がいる。</li> <li>● 日中（特に 12 時台）、船とバスが接続していないことがある。</li> <li>● おれんじ号は、行きは利用しやすいが、特に市外へ通院するときは帰りの時間が読めないため、使いづらい。</li> <li>● タクシーは高く、気軽には使えない。</li> <li>● 運転免許を持たない人は、家族送迎を利用する人が多い。家族の支援が無くなった際の移動手段に不安を感じる人もいる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                               |
| 通学       | 関係機関        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 土日の部活動の際、12:00 に部活動が終わってもバスが無く、家族に送迎してもらっている。場合によっては、スクールバスの臨時便を出すこともある。</li> <li>● 大柵高校の生徒数は、近年増加傾向にあり、特に市外から通う生徒が増えている。小用栈橋の利用が多く、小用栈橋から大柵高校間は比較的路線バスが充実しているが、中町栈橋から大柵高校間の路線バスは、便数が少ない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 観光       | 関係機関        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者数及びレンタサイクルの利用客は減少している。</li> <li>● 観光客の半数以上は自家用車で来訪。海上自衛隊第 1 術科学校の見学者は、小用栈橋からバスで現地まで行けるが、その他の場所を周遊する人は自家用車利用が多い。</li> <li>● 来訪者から、航路は楽しいが江田島市に上陸してからどのように移動したらいいかわからないという声をよく聞く。</li> <li>● バス路線が複雑かつ乗換が必要なため、案内が難しい。（例えばオリーブファクトリーまで案内する場合、大君を経由する便とそうでない便、途中で乗換が必要な便とそうでない便がある）</li> <li>● タクシーは、観光では主に小用栈橋から海上自衛隊第 1 術科学校までの間で利用されている。そこから先は別の方法で周遊を行うか、海上自衛隊第 1 術科学校のみが目的で広島市に戻る場合も多い。</li> <li>● 江田島荘を拠点にした周遊や、体験型観光に力を入れている。</li> <li>● 各栈橋・宿泊施設にポケットーク(携帯型翻訳機)を 1 台ずつ貸与し、外国人への対応ができるようにしているが、栈橋の選択肢が多く、迷いが生じるようである。</li> </ul> |

※市民（いきいき百歳体操参加者）

※関係機関（江田島市役所所管課・市観光協会）

## 4-6 前計画に位置づけた事業の実施状況と目標達成状況

平成 28 年度(2016 年度)から令和 2 年度(2020 年度)までの市の公共交通に関する計画である「江田島市地域公共交通網形成計画」の期間中、交通事業者や行政により、様々な公共交通の利用環境の改善に関する取組を実施しました。各事業は概ね計画どおりに実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、公共交通利用者数や観光客数に関する目標値は達成できませんでした。

表 8 江田島市地域公共交通網形成計画において位置づけられている目標と達成状況

| 目標 1 最適な公共交通ネットワークの構築             |                                                                                                                                                                                                              |                           |                             |                             |
|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 事業名                               | 実施内容                                                                                                                                                                                                         |                           |                             |                             |
| ①海上交通と陸上交通の連携強化                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・航路と路線バスの乗換改善に向けた「公共交通機関の運航（行）に関する覚書<sup>13</sup>」を航路事業者と江田島バス株式会社が締結（平成 28 年度（2016 年度））</li> <li>・中町・高田～宇品航路のダイヤ改正の際、航路接続に配慮したバスダイヤを編成（令和 2 年度（2020 年度）～）</li> </ul> |                           |                             |                             |
| ②路線バス（幹線・支線）系統やダイヤの見直し            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中町～大柿線を高田桟橋まで延伸し、高田～中町～大柿線に変更（平成 29 年度（2017 年度）～）</li> <li>・路線バスの現状分析・課題整理（平成 30 年度（2018 年度）～）</li> </ul>                                                            |                           |                             |                             |
| ③おれんじ号の利便性向上                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・航路との接続や利用者ニーズに基づくダイヤ改正を実施（乗降場所の追加や経路変更を含む。）（平成 29 年度（2017 年度）～）</li> </ul>                                                                                           |                           |                             |                             |
| 評価指標                              | 計画策定時<br>平成 26 年度<br>(2014 年度)                                                                                                                                                                               | 参考値<br>令和元年度<br>(2019 年度) | 現状値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 目標値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) |
| 航路利用者の前年比減少率（％）                   | ▲4.2％                                                                                                                                                                                                        | ▲7.0％                     | ▲20.1％                      | ▲3.5％以下                     |
| 路線バスの年間利用者数（人）                    | 70 万人                                                                                                                                                                                                        | 49 万人                     | 44 万人                       | 70 万人以上                     |
| おれんじ号運行見直し基準（稼働率）の目標を達成した系統の割合（％） | 50％<br>(2/4 系統)                                                                                                                                                                                              | 50％                       | 50％                         | 75％<br>(3/4 系統)以上           |

<sup>13</sup> 公共交通のダイヤを改正する場合、改正予定日の 2 か月前までに、その情報を市に連絡し、市は影響が予測される事業者に対し、速やかに情報提供を行う旨のルール等を設けている。

| 目標 2 交通結節点における機能の向上 |                                                                                                                                                    |                             |                             |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 事業名                 | 実施内容                                                                                                                                               |                             |                             |
| ①乗換環境の充実            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスロケーションシステムを導入（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・結節点（港，中継バスターミナル）にデジタルサイネージを設置（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> </ul> |                             |                             |
| 評価指標                | 計画策定時<br>平成 26 年度<br>(2014 年度)                                                                                                                     | 現状値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 目標値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) |
| 乗継改善策の実施件数（件）       | －                                                                                                                                                  | 2 件                         | 2 件                         |

| 目標 3 利用環境の改善による利便性等の向上 |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                             |                             |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 事業名                    | 実施内容                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                             |                             |
| ①運賃負担感の軽減策の検討          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学定期券購入補助制度を創設（平成 29 年度（2017 年度）～）</li> <li>・路線バスに交通系 IC カードを導入（令和元年度（2019 年度）～）</li> </ul>                                                                                                                                                    |                             |                             |
| ②IC カードの導入             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・航路事業者との勉強会の開催（平成 28 年度（2016 年度）・令和元年度（2019 年度））</li> <li>・航路券売機の IC カード対応化（令和 2 年度（2020 年度）～）</li> <li>・（再掲）路線バスに交通系 IC カード（PASPY）を導入（令和元年度（2019 年度）～）</li> </ul>                                                                              |                             |                             |
| ③バリアフリー化の推進            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗合タクシーにバリアフリー車両を導入（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・路線バス車両を更新（平成 29 年度（2017 年度）：2 台，令和元年度（2019 年度）：3 台）</li> </ul>                                                                                                                                |                             |                             |
| ④わかりやすい公共交通情報の提供       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通マップを作成（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・（再掲）バスロケーションシステムを導入（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・（再掲）結節点（港，中継バスターミナル）にデジタルサイネージを設置（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・バス停名称を変更（平成 29 年度（2017 年度）～）</li> <li>・江田島バス株式会社 HP を開設（令和元年度（2019 年度）～）</li> </ul> |                             |                             |
| 評価指標                   | 計画策定時<br>平成 26 年度<br>(2014 年度)                                                                                                                                                                                                                                                         | 現状値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 目標値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) |
| 負担感軽減策の実施件数（件）         | －                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 2 件                         | 2 件                         |
| バリアフリー車両の導入率（％）        | 53.3%<br>(8 台/15 台)                                                                                                                                                                                                                                                                    | 86.6%<br>(13 台/15 台)        | 80.0%<br>以上                 |
| 情報提供資機材の整備件数（件）        | －                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 5 件                         | 2 件                         |

| 目標 4 観光の強化による利用者の増加 |                                                                                                                                                                                                                                                                 |                           |                             |                             |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 事業名                 | 実施内容                                                                                                                                                                                                                                                            |                           |                             |                             |
| ①公共交通を活用した観光ルートの開発  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市 HP に公共交通を利用した観光ルートを掲載（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・江田島バス株式会社 HP にバスを利用した観光ルートを掲載（令和 2 年度（2020 年度）～）</li> </ul>                                                                                                       |                           |                             |                             |
| ②観光客に向けた情報発信力の強化    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google 路線検索への対応（令和元年度（2019 年度）～）</li> <li>・瀬戸内海クルーズ株式会社の旅行商品を市 Facebook で PR（令和元年度（2019 年度）～）</li> <li>・市内航路を対象としたスタンプラリーを開催（令和 2 年度（2020 年度）～）</li> <li>・路線バスの 24 時間乗り放題乗車券（MOBIRY）を販売開始（令和 2 年度（2020 年度）～）</li> </ul> |                           |                             |                             |
| 評価指標                | 計画策定時<br>平成 26 年度<br>(2014 年度)                                                                                                                                                                                                                                  | 参考値<br>令和元年度<br>(2019 年度) | 現状値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 目標値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) |
| 年間総観光客数（人）          | 54 万人                                                                                                                                                                                                                                                           | 52 万人                     | 26 万人                       | 70 万人                       |

| 目標 5 地域で公共交通を支えるための意識の醸成 |                                                                                                                                                                                            |                             |                             |  |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--|
| 事業名                      | 実施内容                                                                                                                                                                                       |                             |                             |  |
| ①公共交通の利用促進と地域との意見交換会の開催  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市広報誌で啓発記事を連載（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・おれんじ号のダイヤ改正に伴う出前講座を実施（平成 28 年度（2016 年度）～）</li> <li>・自治会を対象としたバスの乗り方教室を開催（平成 30 年度（2018 年度）～）</li> </ul> |                             |                             |  |
| 評価指標                     | 計画策定時<br>平成 26 年度<br>(2014 年度)                                                                                                                                                             | 現状値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 目標値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) |  |
| 意見交換会の開催回数（回）            | 年間 2 回                                                                                                                                                                                     | 延べ<br>9 回                   | 延べ<br>10 回以上                |  |
| 地域が主体となった取組件数            | —                                                                                                                                                                                          | 2 件                         | 2 件                         |  |

## 第5章 江田島市の公共交通の役割と課題

### 5-1 江田島市の公共交通が果たすべき役割

本市の特性やまちづくりの方向性等を踏まえ、本市において公共交通が果たすべき役割は、以下の3つに整理できます。

**① 江田島市と結びつきの強い広島市や呉市との間をつなぎ、生活と交流を支える**

広島市及び呉市等の近隣都市へ通勤・通学、買い物・通院する市民は多く、日常生活圏が広域に及んでいることから、市外へつなぐ役割が求められている。

**② 居住エリアと拠点、あるいは拠点間を結び、市民や来訪者に移動手段を提供する**

高齢者や学生など自由に自動車で移動できない市民にとって、路線バス、乗合タクシー、タクシーといった公共交通は、重要な生活基盤（ライフライン）であるとともに、公共交通で訪れる来訪者にとっても市内周遊に欠かせない移動手段である。

**③ 便利で利用しやすいだけではなく、島しょ部特有の公共交通の魅力を活かす**

フェリーへの乗船やバスの車窓から眺める島の風景などは、来訪者にとっては、島体験の一つであり、本市の公共交通が提供する価値として活用可能なものである。

### 5-2 江田島市の公共交通の課題

江田島市の地域特性や地域旅客運送サービスの現状、将来のまちづくりの方向性等を踏まえ、本市の公共交通の課題を整理すると、以下のとおりとなります。

#### (1) 課題

- 人口減少やコロナ禍の影響に伴い、乗降客数は減少しており、交通事業者の経営環境の悪化や行政負担額の増加が懸念される。現状のままであれば、公共交通のサービス水準が低下するおそれがあるが、公共交通の存続に関する危機感について、市民と共有を図れていない。
- バスと航路の乗継が図りにくくなっており、バスと航路の接続が十分とはいえない。
- 複雑な路線網となっており、分かりやすく利用しやすい利用環境が整っていない。
- 幹線道路までの移動が難しい市民が存在している。
- 乗務員の不足や高齢化が顕在化しつつあり、航路事業者においては、所有船舶の老朽化が進んでいる。

#### (2) 利用者の主な意見

- 航路とバスの接続改善、航路と接続するバス路線の増便
- 目的地との往復利用が可能となるバスダイヤの編成
- 公共交通網が分かりにくい。



## 第6章 計画の基本方針・目標

### 6-1 基本理念・基本方針

地域や公共交通の現状，江田島市が将来目指す姿と方向性を踏まえ，江田島市地域公共交通計画の基本理念と基本方針を次のとおり定めます。

#### <基本理念>

**日常生活や交流を支え，魅力的で持続可能な公共交通サービスを提供します**

#### 基本方針1 便利で持続可能な地域公共交通網の形成

公共交通の維持・確保に向けた取組の継続と，移動ニーズを踏まえた陸上交通網の見直しにより，便利で持続可能な公共交通網の構築を図ります。また，タクシーやカーシェア，レンタサイクル等の移動手段を活用し，多様なニーズへの対応を図ります。

#### 基本方針2 分かりやすく魅力的なサービス提供と利用促進

公共交通の利用者が減少する中，新たな利用者を増やしていくため，江田島市の公共交通を利用したことがない人でも利用できるよう，分かりやすい情報提供と利用促進の取組を行います。また，近年 MaaS<sup>14</sup>や AI<sup>15</sup>等の技術が発達しており，これらの技術の活用を視野に入れながら，魅力的なサービスを構築し，新たな需要（観光・ビジネス等）の取り込みを図ります。

#### 基本方針3 地域公共交通を守り・育てる意識の醸成

市民の移動手段を確保するには，市民・交通事業者・行政がそれぞれ受容できる範囲の努力を行っていく必要があります。公共交通や徒歩，自転車などの環境にやさしく，健康により交通行動への転換を図りながら，市民と共に守り育てる地域公共交通を目指します。

<sup>14</sup> Mobility as a Service の略称。情報通信技術を活用して交通をクラウド化し，複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

<sup>15</sup> Artificial Intelligence の略称。人工知能。問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。

## 6-2 地域公共交通網における役割分担と今後の方針

上位・関連計画における方向性や市内の地域公共交通が現在担っている役割を踏まえ、地域公共交通ごとの今後の方針を以下のとおり定めます。

表9 役割と今後の方針

| 役割                          | 主たる交通手段                  | 今後の方針                                                                                                                                                             |
|-----------------------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 周辺都市との<br>連絡                | 航路                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少を踏まえた持続可能な航路のあり方の検討を行い、周辺都市との間の交流、連携に必要なサービス水準の維持・確保に努める。</li> <li>●速達性、定時性、輸送力を中心にサービスを考える。</li> </ul>               |
| 市内拠点間の<br>連絡                | 路線バス                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●市内拠点間の交流・連携に必要なサービス水準の維持・確保に努める。</li> <li>●速達性、定時性、輸送力を中心にサービスを考える。</li> <li>●航路との接続や、移動ニーズへの対応を意識した路線網の再編を行う。</li> </ul> |
| 集落から各拠点や<br>交通結節点との<br>連絡   | 乗合タクシー                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●情報提供の充実に努めながら、地域内における市民の生活を支えるため、必要なサービス水準の維持・確保に努める。</li> <li>●利用者の維持・確保に向け、航路とバスとの接続や移動ニーズへの対応を意識したダイヤ編成を行う。</li> </ul> |
| 特定の目的に応じた<br>まとまった移動を<br>担う | スクールバス                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●特定の目的を持った移動ニーズに応えるため、上記交通サービスと連携・役割分担をしながら維持・確保に努める。</li> </ul>                                                           |
| 上記で賄えない<br>個別の移動を担う         | タクシー<br>カーシェア<br>レンタサイクル | <ul style="list-style-type: none"> <li>●個別の移動ニーズにきめ細かく応えるため、上記交通サービスと連携・役割分担をしながら維持・確保に努める。</li> </ul>                                                            |

※令和2年度において、国庫補助金を活用している路線バス及び乗合タクシーの対象路線は次のとおりとなっています。

- 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金の対象路線
  - ・江田島バス 小用～大柿支所前～深江系統
  - ・江田島バス 小用～大君～深江系統
- 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の対象路線
  - ・予約型乗合タクシー「おれんじ号」（江田島北部線、沖美北部線、沖美南部線）
  - ・乗合タクシー「江田島北部朝夕便」

## 6-3 計画の目標と評価指標

計画の基本方針を実現するため、本計画期間中に達成すべき目標と評価指標を以下のとおり設定します。

### <全体的な評価指標>

| 評価指標                          | データ等の取得方法       | 評価時期 |
|-------------------------------|-----------------|------|
| 公共交通（航路，路線バス，乗合タクシー）の年間延べ利用者数 | 交通事業者と市が利用者数を把握 | 毎年度  |

### <個別目標に対する評価指標>

| 基本方針                                            | 目標                                          | 評価指標                                                                                                               | データ等の取得方法 | 評価時期 |
|-------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------|
| <b>基本方針 1</b><br>便利で持続可能な<br>地域公共交通網の形成         | <b>目標 1-1</b><br>地域公共交通網の<br>持続可能性の向上       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●公共交通（中町・高田～宇品航路，路線バス，乗合タクシー）の収支差</li> <li>●公共交通等の維持確保に係る市の財政負担額</li> </ul> | 市が把握      | 毎年度  |
|                                                 | <b>目標 1-2</b><br>地域公共交通網の<br>利便性の向上         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●海上交通に対する陸上交通の 25 分以内接続率</li> </ul>                                         | 市が把握      | 毎年度  |
| <b>基本方針 2</b><br>わかりやすく魅力的な<br>サービスの提供と利用<br>促進 | <b>目標 2-1</b><br>利用しやすい<br>環境整備・情報提供        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境整備・情報提供策の実施メニュー数</li> </ul>                                              | 市が把握      | 毎年度  |
|                                                 | <b>目標 2-2</b><br>利用したくなる<br>公共交通サービスの<br>提供 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●需要喚起策や利用促進イベントの参加人数</li> </ul>                                             | 市が把握      | 毎年度  |
| <b>基本方針 3</b><br>地域公共交通を守り・<br>育てる意識の醸成         | <b>目標 3-1</b><br>地域公共交通に<br>関する意識啓発         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●モビリティ・マネジメント<sup>16</sup>に係る取組件数</li> </ul>                                | 市が把握      | 毎年度  |

<sup>16</sup> Mobility Management，略称MM。一人一人のモビリティ(移動)が，社会にも個人にも望ましい方向に自発的に変化することを促す，コミュニケーションを中心とした交通施策。

## 第7章 目標達成のために行う事業及びその実施主体等

### 基本方針1 便利で持続可能な地域公共交通網の形成

| 目標1—1               | 地域公共交通網の持続可能性の向上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業1 海上交通における移動手段の確保 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事業内容                | <p>人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少で、交通事業者の経営状況が急速に悪化しています。国の補助事業の活用や、航路の維持確保に向けた国・県への要望を適宜行っていくほか、今後も航路の維持・確保が図られるよう、生活航路に対する補助の継続、航路網の将来イメージに関する事業者との協議等、海上交通の維持に向けた連携を進めます。</p> <p>また、一部では担い手の高齢化・人材不足が進みつつあるため、船員募集記事の市広報誌等への掲載を行います。</p> <p>加えて、近年日本各地で環境への配慮とランニングコストの削減のため、EV船（蓄電池船）や自動運航船等の導入が進められており、江田島市においても、航路の持続可能性に寄与する次世代技術の情報収集を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活航路に対する補助の実施【継続】</li> <li>○ 中町・高田～宇品航路の公設民営による運航【継続】</li> <li>○ 生活航路の維持に対する国・県への要望活動の継続【継続】</li> <li>○ 船員募集記事の市広報誌等への掲載【継続】</li> <li>○ 事業者が保有する船舶の更新に関する市との情報共有【新規】</li> <li>○ 航路網の将来イメージに関する事業者との協議【新規】</li> <li>○ 航路の持続可能性に寄与する次世代技術の情報収集【新規】</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> <p>図 57 スーパー千鳥</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>図 58 ニュー千鳥</p>  </div> </div> |
| 実施主体                | 交通事業者、江田島市                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| 事業2 陸上交通における移動手段の確保 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業内容                | <p>江田島市内の陸上交通には、路線バス以外に、路線バスを補完するようにきめ細かな運行を行う乗合タクシー、通学目的の移動を担うスクールバス、観光等をはじめとした個別の移動ニーズを担う、タクシー、カーシェア、レンタサイクルが存在します。</p> <p>今後も移動手段を確保するため、地域間幹線系統確保維持費国庫補助金等を活用し、路線バスの運行に対する支援を実施します。また、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用し、乗合タクシーの運行を継続していくほか、タクシーやカーシェア、レンタサイクルとの役割分担・連携を図りながら、移動手段の確保を図ります。</p> <p>また、路線バス・タクシーの担い手の高齢化・人材不足が進みつつあるため、乗務員募集記事の広報誌等への掲載等、陸上交通の維持に向けた連携を進めるとともに、将来を見据え、自動運転などの新技術に関する情報の収集に努めます。</p> |
|                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 路線バスに対する補助の実施【継続】</li> <li>○ 乗合タクシー「おれんじ号」等の運行【継続】</li> <li>○ スクールバスの運行【継続】</li> <li>○ カーシェア及びレンタサイクルの維持【継続】</li> <li>○ 乗務員募集記事の市広報誌等への掲載【継続】</li> <li>○ 生活交通の維持に対する国・県への要望活動の継続【継続】（再掲）</li> <li>○ 自動運転等の導入に向けた情報収集【新規】</li> </ul>                                                                                                                                 |
|                     | <div> <div> <div>図 59 江田島バス</div>  </div> <div> <div>図 60 乗合タクシー</div>  </div> </div>                                                                                                                                                 |
|                     | <div> <div> <div>図 61 カーシェアステーション（中町桟橋）【再掲】</div>  </div> <div> <div>図 62 レンタサイクル（三高桟橋）【再掲】</div>  </div> </div>                                                                                                                      |
| 実施主体                | 交通事業者、江田島市、市観光協会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |



| 評価指標                                                                                                                                                                                |            | 参考値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 現状値<br>(平成 28 年度～<br>令和元年度平均値) | 目標値<br>令和 8 年度<br>(2026 年度) |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| 公共交通（中町・高田～宇品航路，路線バス，乗合タクシー）の収支差                                                                                                                                                    | 中町・高田～宇品航路 | -5,677 万円                   | 563 万円                         | 平均値よりも改善                    |
|                                                                                                                                                                                     | 路線バス       | -11,052 万円                  | -6,759 万円                      | 平均値よりも改善                    |
|                                                                                                                                                                                     | 乗合タクシー     | -1,720 万円                   | -1,670 万円                      | 平均値よりも改善                    |
| <b>指標の算定方法</b><br>交通事業者への聞き取り等により市が収支差（経常収益から経常費用を引いたもの）を把握し、算定します。                                                                                                                 |            |                             |                                |                             |
| <b>目標値の考え方</b><br>移動需要の喚起策や市民への意識醸成といった各種事業の実施による運賃収入の増加を見込み、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準よりも収支差を改善させることを目指し、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けた令和 2 年度を除いた過去 4 年間(平成 28～令和元年度)の収支差の平均値よりも改善させることを目標値とします。 |            |                             |                                |                             |

| 評価指標                                                                                                                                                                                | 参考値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 現状値<br>(平成 28 年度～<br>令和元年度平均値) | 目標値<br>令和 8 年度<br>(2026 年度) |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| 公共交通等の維持確保に係る市の財政負担額                                                                                                                                                                | 12,579 万円                   | 8,836 万円                       | 平均値以下に抑制                    |
| <b>指標の算定方法</b><br>市の公共交通等の維持確保に係る負担額を把握します。<br><算定対象><br>○ 航路運航への補助<br>○ 路線バス運行への補助<br>○ 乗合タクシーの運行に係る市負担額（委託費から国庫補助金を除いた市負担額）<br>○ 交通事業特別会計における歳出<br>※主に公共交通の維持に係るランニングコストを算定対象とする。 |                             |                                |                             |
| <b>目標値の考え方</b><br>各種事業実施による支出の増加が想定されていますが、事業効果を高めることにより運賃収入を増加させ、行政負担額の抑制に努めます。                                                                                                    |                             |                                |                             |

## 事業 3 ニーズを踏まえた地域公共交通網の見直し

## 事業内容

近年、江田島市役所や島の病院おたにを始め、市内の主要施設の移転・新設等が進んでおり、市民の移動ニーズに対応した陸上交通網の見直しが求められています。

また、江田島市では、航路事業者及び路線バス事業者との間で覚書を締結し、航路と路線バスの接続改善を図っていますが、Y字型の地勢に拠点が点在していることからバス路線網が複雑になっており、異なる栈橋を起終点とする系統は、どちらの栈橋でも航路と接続することが難しくなっています。

図 63 移転の施設にバス路線網が対応できていない例

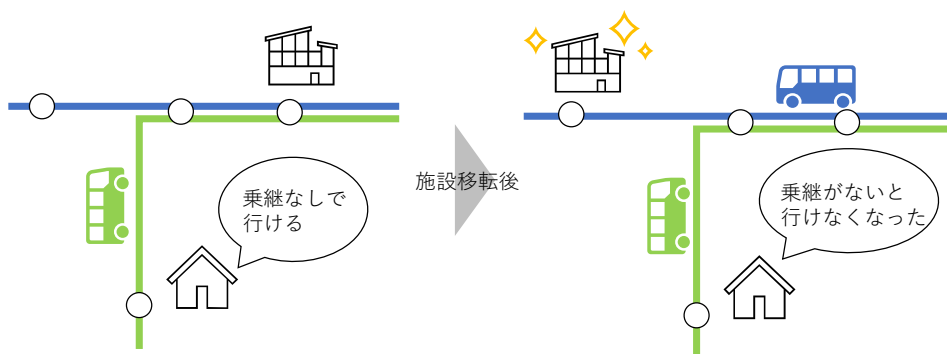
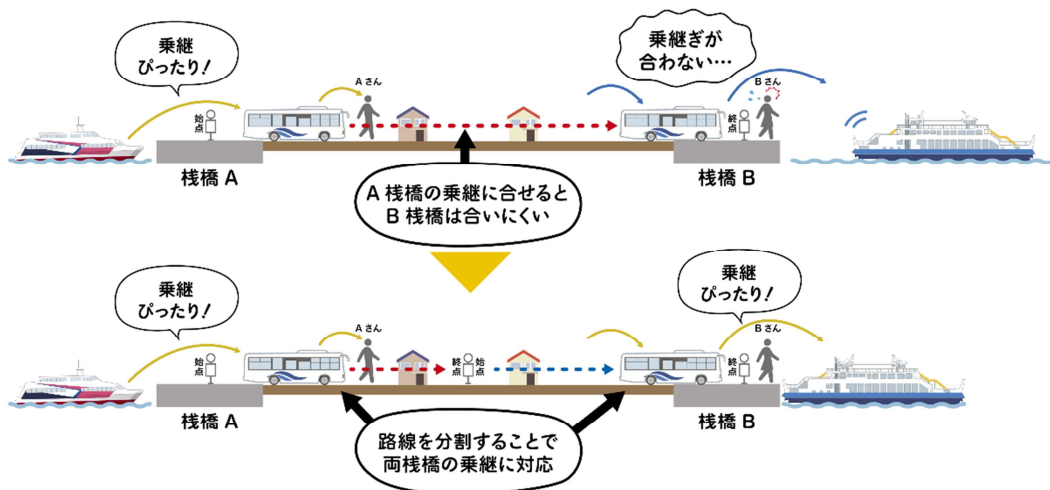


図 64 起終点が栈橋となる系統の例



航路接続や移動ニーズを踏まえたバス路線網の見直しを行うことで、地域公共交通網の利便性の向上を図ります。

- 公共交通機関の運航（行）に関する覚書の遵守【継続】
- 航路接続及び移動ニーズを踏まえたバス路線網の再編【継続】

## 実施主体

交通事業者、江田島市

| 評価指標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 現状値<br>令和 3 年度（2021 年度） | 目標値<br>令和 8 年度（2026 年度） |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 海上交通に対する陸上交通の 25 分以内<br>接続率                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 38%<br>(249 便/648 便)    | 現状値以上に改善                |
| <b>指標の算定方法</b><br><p>海上交通に対して陸上交通（路線バスまたは乗合タクシー）が 25 分以内に接続している割合（接続率）を市が把握します。</p> <p>&lt;算定方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 航路ダイヤを基準とし、25 分以内に陸上交通（路線バスまたは乗合タクシー）が接続している場合に、「接続している」と判定。航路 1 便に対して路線バスが 2 便以上接続している場合も 1 便とする。</li> <li>○ 算定式：海上交通と陸上交通方面別の航路のべ便数…①<br/>うち、陸上交通と 25 分以内に接続している航路のべ便数…②<br/>海上交通に対する陸上交通の接続率＝②÷①</li> </ul> <p>例：航路 648 便に対し、25 分以内に路線バスまたは乗合タクシーが 249 便接続している場合、接続率は 38%</p><br><b>目標値の考え方</b><br><p>バス路線網の再編を行うことで、海上交通と陸上交通の接続改善を図ることにより、目標年次までに 25 分以内接続率を上昇させることを目標とします。</p> |                         |                         |

## 基本方針 2 わかりやすく魅力的なサービス提供と利用促進

### 目標 2 - 1

### 利用しやすい環境整備・情報提供

#### 事業 4 公共交通の利用環境の整備

##### 事業内容

令和元年(2019年)に江田島バス株式会社が交通系 IC カード PASPY を導入しており、一部の桟橋でもキャッシュレス決済<sup>17</sup>に対応したサービスを導入しています。

今後も国や県の補助制度を活用した公共交通の利用環境の整備や、交通事業者が取り組む公共交通の安全確保や魅力向上に対する江田島市の支援を通して、公共交通の利用環境整備を進めます。

また、交通結節点である中継ターミナルゆめタウン前バス停の利用環境の向上に関する検討を行います。

- キャッシュレスに対応した決済サービスの推進・継続【継続】
- 交通事業者による感染症対策や魅力向上に関する取組の支援【継続】
- 中継ターミナルゆめタウン前バス停の利用環境の向上に関する検討【新規】

図 65 広島県内 36 事業者の公共交通が定額で乗り放題になるデジタルチケット



図 66 広島港に設置されたキャッシュレス券売機【再掲】



##### 実施主体

交通事業者、江田島市

<sup>17</sup> 現金を使用せず、クレジットカードや電子マネー、バーコードやQRコードを介したコード決済を利用した電子決済のこと。

## 事業5 利用者が分かりやすい公共交通情報の提供

### 事業内容

江田島市の路線バスは、Y字型の地勢に拠点が点在していることから路線網が複雑になっています。また、公共交通マップに路線バス沿線の観光地を掲載しているものの、各桟橋や中継バスターミナルといった拠点でのPRが不足しており、観光客などの来訪者にとって分かりづらくなっています。これに対し、江田島バス株式会社では、バス車両の行先表示にフルカラーLED<sup>18</sup>を採用し、市内5路線を江田島市にちなんだカラーで区分するなどの工夫を行っています。

路線再編後も、色による区分を継続実施するとともに、方面別の系統番号の導入、交通結節点への施設案内表示の設置、観光施設名などを冠した来訪者にも分かりやすいバス停名への見直しなど、情報提供の充実を図ります。

なお、引き続き、公共交通マップの作成やバスロケーションシステム及びデジタルサイネージの運営等を行いながら、情報発信を行っていきます。

- 公共交通マップの作成【継続】
- バスロケーションシステムやデジタルサイネージの運営【継続】
- Google 路線検索や民間乗換案内への対応【継続】
- 路線番号の導入【新規】
- 来訪者にも分かりやすいバス停名への見直し【新規】
- 居住地別の公共交通時刻表の作成【新規】
- 桟橋別の公共交通時刻表の作成【新規】
- 交通結節点への交通案内表示の設置【新規】

図 67 江田島バス株式会社による路線の色分け

市内5路線を江田島市にちなんだラインカラーで区分して分かりやすくしています。

緑色…小用～大柿線

江田島のオリーブの木をイメージ

水色…長瀬海岸線

江田島湾や長瀬海岸の穏やかな海をイメージ

黄色…津久茂線

市の花「キク」、オリーブオイルをイメージ

紫色…大柿～中町～高田線

江田島のサツマイモをイメージ

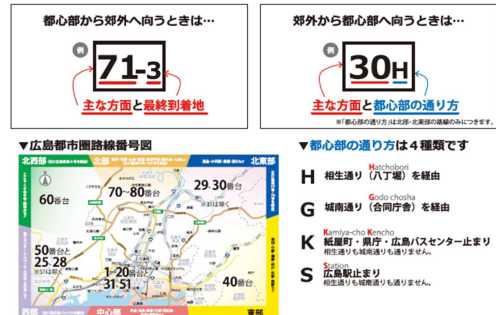
ピンク色…是長線

市の木「サクラ」、沖美のスイートピーをイメージ



出典：江田島バス株式会社

図 68 路線番号設定の例（広島県バス協会）

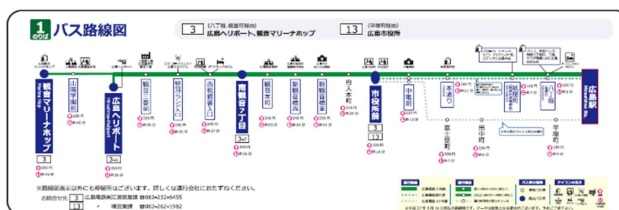
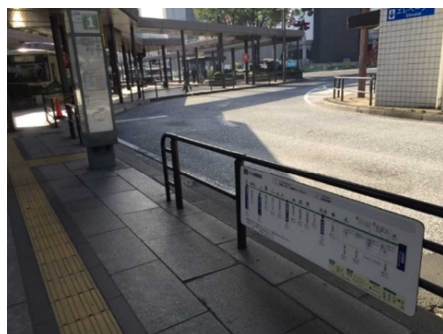


出典：広島県バス協会

<sup>18</sup> 赤・緑・青の三原色の光が一つの素子で出せるようになっている LED のこと。



図 69 沿線施設等をバス路線図に記載した例（広島駅南口バスのりば（改修前））



実施主体 交通事業者、江田島市

| 評価指標               | 現状値<br>令和 2 年度（2020 年度） | 目標値<br>令和 8 年度（2026 年度） |
|--------------------|-------------------------|-------------------------|
| 環境整備・情報提供策の実施メニュー数 | －                       | 累計 5 件以上                |

#### 指標の算定方法

市が行う環境整備・情報提供改善策の実施状況を把握し算定します。なお、カウント方法は、情報提供のメニューごとにカウントすることとします。（居住地別・桟橋別時刻表を複数回に分けて配布した場合も、カウントは 1 件とする）

<算定対象>

- 新規に実施した環境整備・情報提供策  
※時刻表の更新等、既存事業はカウントしない

#### 目標値の考え方

事業 5 で掲げる 5 つの新規事業「路線番号の導入」「来訪者にも分かりやすいバス停名への見直し」「居住地別の公共交通時刻表の作成」「桟橋別の公共交通時刻表の作成」「交通結節点への交通案内表示の設置」等を実施することにより、目標値の達成を目指します。

事業6 需要の掘り起こしに向けた取組の実施

事業内容

人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響で移動需要そのものが減少しており、移動需要の喚起は一層重要性を増しています。

一方、近年江田島市では、市内に進出する企業が相次いでおり、通勤やビジネス（ワーケーション<sup>19</sup>等を含む）における移動需要の変化が予想されているほか、新しい宿泊施設のオープンや、江田島市の自然や食を満喫する体験型観光ツアーの造成が行われるなど、企業誘致や観光施策において様々な取組が行われています。

関係機関が実施するイベント及びチケット等との連携、新たな利用のきっかけになるようなイベント等の実施により、移動需要の誘発を図ります。

- 公共交通を利用した観光ルートの公開【継続】
- 関係機関が実施するイベント・チケット等との連携【継続】
- 需要喚起・利用促進イベントの実施【継続】

図 70 路線バスを利用した観光ルート

| 期 日           | 行 程                                                                                                                                               |             |             |             |             |             |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 月曜日を除く<br>日帰り | 長瀬海岸経由小用行き                                                                                                                                        | 徒歩          | 徒歩          | ゆめタウン行き     | 徒歩          | 徒歩          |
|               | 中町桟橋=====長瀬海岸.....ネイビーロード.....長瀬海岸=====江南橋.....海辺の新鮮市場(昼食).....                                                                                   |             |             |             |             |             |
|               | 10:35                                                                                                                                             | 10:36       | 10:42~11:10 | 11:16~11:21 | 11:25       | 11:26~12:05 |
|               | 徒歩                                                                                                                                                | 深江・須野本行き    | 徒歩3.1km     | 徒歩1.2km     | 徒歩2km       | 小用行き        |
| 月曜日を除く<br>日帰り | .....江南橋(藤三前)=====須野本.....茶臼山.....大窪寺(深江大仏).....須野本=====深江東.....                                                                                  |             |             |             |             |             |
|               | 12:07~12:10                                                                                                                                       | 12:32       | 13:10~13:30 | 13:45~14:00 | 14:25~14:30 | 14:33       |
|               | 徒歩0.4km上り                                                                                                                                         | 徒歩0.4km下り   | 小用行き        | 徒歩          |             |             |
|               | 深江東.....愚痴聞き地蔵尊.....深江東=====南大君.....江田島オーブファクトリー(おやつタイム・買物).....南大君                                                                               |             |             |             |             |             |
| 月曜日を除く<br>日帰り | 14:33                                                                                                                                             | 14:40~15:20 | 15:25~15:29 | 15:38       | 15:41~16:20 | 16:23~16:29 |
|               | 小用行き                                                                                                                                              |             |             |             |             |             |
|               | 南大君=====小用                                                                                                                                        |             |             |             |             |             |
|               | 16:29                                                                                                                                             | 17:04       |             |             |             |             |
| 注意事項          | ※徒歩での移動時間・距離があります。それなりの装備でお楽しみください。須野本バス停付近には公衆トイレがあります。<br>※ネイビーロード・茶臼山とも潮の満ち引きにより、見物ができない場合があります。<br>※海辺の新鮮市場と江田島オーブファクトリーは、月曜日(祝日の場合は翌日)が休業です。 |             |             |             |             |             |

出典：江田島バス株式会社

図 71 おでかけ無料乗車 day (チラシ)



<sup>19</sup> 「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語。日本の実情に合わせて、必ずしもバケーションだけではない取り組みが各地域で行われており、広義化するワーケーション(Work + ation)を踏まえて、日本ワーケーション協会では、休暇活用(観光等)型(Vacation)、拠点移動型(不動産型)(Location)など7つのタイプに定義している。

図 72 スマホ de のりものスタンプラリー2021in 広島



実施主体 交通事業者、江田島市、市観光協会、沿線施設等

## 事業 7 運賃負担の軽減策の実施

### 事業内容

現在江田島市では、市内の小中高校生等を対象に通学定期券購入補助制度や、市在住の妊婦を対象に妊婦健康診査交通費等助成金制度<sup>20</sup>を実施しています。今後もこれらの取組を継続して実施することで、定住促進につなげます。

- 通学定期券購入補助制度の実施【継続】
- 妊婦健康診査交通費等助成金制度の実施【継続】

図 73 通学定期券制度（学割バス）  
の販売価格一覧

| 運送/行先    | 公共交通事業者名 | 乗車回数 | 定 価     | 学割バス販売価格      |
|----------|----------|------|---------|---------------|
| 切手/学品    | 上野汽船     | 1か月  | 8,810円  | 8,540円        |
|          |          | 2か月  | 17,620円 | 16,000円       |
|          |          | 3か月  | 26,430円 | 34,680円       |
|          |          | 4か月  | 35,240円 | 3,660円        |
| 切手/天竺    | さくら海運    | 1か月  | 8,160円  | 10,260円       |
|          |          | 2か月  | 16,320円 | 18,760円       |
|          |          | 3か月  | 24,480円 | 5,440円        |
|          |          | 4か月  | 32,640円 | 15,510円       |
| 小冊/学品    | 瀬戸内シーライン | 1か月  | 18,820円 | 23,380円       |
|          |          | 2か月  | 37,640円 | 12,550円       |
|          |          | 3か月  | 56,460円 | 36,460円       |
|          |          | 4か月  | 75,280円 | 70,560円       |
| 小冊/月     | 瀬戸内シーライン | 1か月  | 9,410円  | 6,280円        |
|          |          | 2か月  | 18,820円 | 18,240円       |
|          |          | 3か月  | 28,230円 | 35,280円       |
|          |          | 4か月  | 37,640円 | 4,900円        |
| 小冊/月     | 南バンカーサブ  | 1か月  | 7,950円  | 13,660円       |
|          |          | 2か月  | 15,900円 | 25,040円       |
|          |          | 3か月  | 23,850円 | 6,120円        |
|          |          | 4か月  | 31,800円 | 17,740円       |
| 切手/月     | 南バンカーサブ  | 1か月  | 5,710円  | 34,250円       |
|          |          | 2か月  | 11,420円 | 7,130円        |
|          |          | 3か月  | 17,130円 | 20,310円       |
|          |          | 4か月  | 22,840円 | 38,540円       |
| 中冊/高田/学品 | 瀬戸内シーライン | 1か月  | 17,420円 | 11,640円       |
|          |          | 2か月  | 34,840円 | 34,900円       |
|          |          | 3か月  | 52,260円 | 69,800円       |
|          |          | 4か月  | 69,680円 | 9,840円        |
| 高田/学品    | 瀬戸内シーライン | 1か月  | 13,250円 | 9,840円        |
|          |          | 2か月  | 26,500円 | 25,000円       |
|          |          | 3か月  | 39,750円 | 46,850円       |
|          |          | 4か月  | 53,000円 |               |
| バス路線     | 江田島バス    | 1か月  | 10,680円 |               |
|          |          | 2か月  | 21,360円 |               |
|          |          | 3か月  | 32,040円 |               |
|          |          | 4か月  | 42,720円 |               |
| 大冊/月     | 江田島バス    | 1か月  | 13,250円 |               |
|          |          | 2か月  | 26,500円 |               |
|          |          | 3か月  | 39,750円 |               |
|          |          | 4か月  | 53,000円 |               |
|          |          |      |         | 定価から<br>33%割引 |

図 74 妊婦健康診査交通費等助成事業

妊婦健康診査交通費等助成事業

公開日 2018年02月01日 (問)子育て支援課 電話:0823-42-2852

[このページを印刷](#)

妊婦一般健康診査受診時の交通費等を助成します。詳しくは、子育て支援課までお問い合わせください

**対象者**

江田島市内に在住し、市から母子健康手帳の交付時に妊婦一般健康診査補助券の交付を受けた者

**クーポン券交付方法**

妊婦一般健康診査補助券と一緒に交付します。

**助成内容及び利用方法**

妊婦一般健康診査補助券（最大14枚）を利用して妊婦健診を受診する際の、交通費を助成します。ただし、転入者は、転入時に交付した枚数分となります。

※クーポン券の利用（助成の対象）は、受診日に限ります。

①公共交通機関を利用した場合  
船舶利用時：受診当日、切符の販売窓口等にクーポン券を提示し、乗車料金が無料になります。※6ヶ月未満の乗車利用も可  
バス利用時：受診当日、乗車時、クーポン券を提示し、乗車料金が無料になります。ただし、バス専用のクーポン券が必要となりますので、事前に申し出てください。

②公共交通機関以外を利用した場合  
1回の受診に対し、負担軽減措置として1,000円を助成します。受診日から6ヶ月以内に助成請求申請書を市へ提出してください。

**助成券が利用できる公共交通機関**

上村汽船、さくら海運、瀬戸内シーライン、南バンカーサブリ、江田島バス、江田島バス（運行）する路線（江田島市内または江田島市内を発着するものに限る）

実施主体 交通事業者、江田島市

<sup>20</sup> 妊婦健診を受診する際、交通費が助成される江田島市の制度。航路やバスは無料で利用でき、公共交通機関以外を利用した際は、1回の受診に対し、負担軽減措置として1,000円助成される。

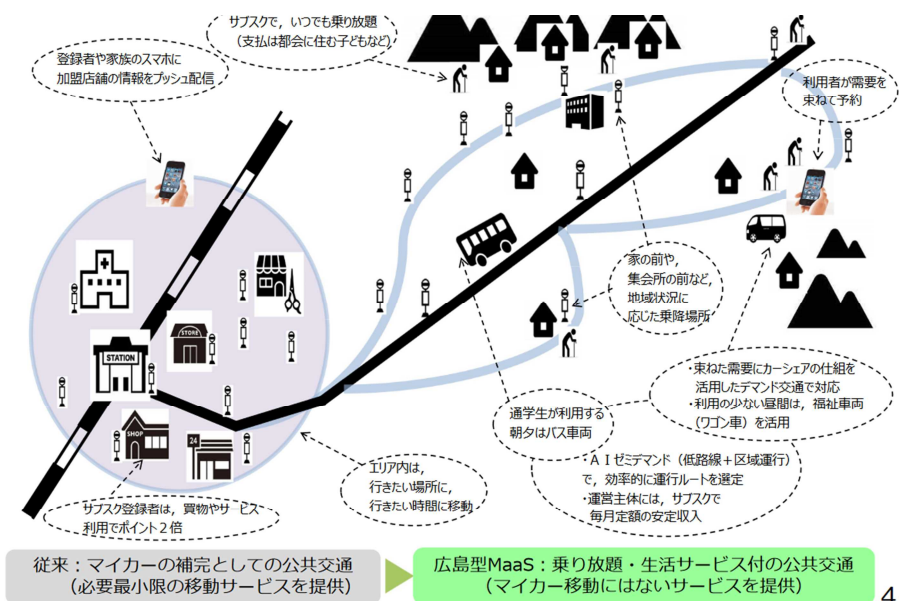
## 事業 8 新たな技術を活用した公共交通サービスの調査・研究

### 事業内容

MaaS 等、公共交通をとりまく新技術やサービスはめざましく発展しています。江田島市の航路や路線バスは、事業者等により GTFS データが整備され、Google 等の路線検索にも対応しています。今後はモード間の連携や観光施設、アクティビティ等との連携も視野に入れながらさらなる可能性を探ります。

#### ○ ICT<sup>21</sup>を活用した公共交通サービスの検討【新規】

図 75 広島県が取り組む中山間型 MaaS のイメージ



### 実施主体

交通事業者、江田島市、市観光協会、沿線施設等、関係期間

| 評価指標                                                                                                                                                                     | 現状値<br>令和2年度(2020年度) | 目標値<br>令和8年度(2026年度) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------------|
| 需要喚起策や利用促進イベントの参加人数                                                                                                                                                      | 678人/年               | 5,000人/年             |
| <b>指標の算定方法</b><br>航路スタンプラリー、おでかけ無料乗車 day 等の需要喚起策や利用促進イベントの参加者数を市が把握し算定します。                                                                                               |                      |                      |
| <b>目標値の考え方</b><br>令和2年度(2020年度)に実施した「航路スタンプラリー」の参加者(延べ乗船回数)が678名(回)、令和3年度(2021年度)11月1日に実施した「おでかけ無料 day」の利用者が1,579名だったことから、これらの需要喚起策や利用促進イベントを実施することで参加者合計5,000人達成を目指します。 |                      |                      |

<sup>21</sup> 情報通信技術(Information and Communication Technology)の略称。通信を使ってデジタル化された情報をやりとりする技術。



## 基本方針3 地域公共交通を守り・育てる意識の醸成

### 目標3-1

### 地域公共交通に関する意識啓発

#### 事業9 モビリティ・マネジメントの実施

##### 事業内容

人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少で、交通事業者の経営状況が急速に悪化しており、地域公共交通の維持には、市民への「公共交通を守り・育てる意識」の啓発が必要不可欠です。

高齢者や学生等の若年層といった各ターゲットに合わせたきめ細かな情報提供を行い、公共交通を守り・育てる意識の醸成や行動変容に向けたコミュニケーションを図ります。

- 公共交通の現状に関する周知・啓発【継続】
- ターゲットに合わせたモビリティ・マネジメントの実施【継続】
- 住民主体による移動手段<sup>22</sup>の確保に向けた周知・啓発【新規】

図 76 バスの乗り方教室【再掲】



図 77 高校生向けモビリティ・マネジメントのパンフレット（岩国市）



##### 実施主体

交通事業者、江田島市、市民

<sup>22</sup> 住民が自ら移動手段の確保に取り組んだり、運営または運行の主体となって創出された移動サービス（自家用有償旅客運送や許可・登録不要の移動支援、住民による自主運行バス等）。



| 評価指標                                                                                                                                                                                       | 現状値<br>令和 2 年度（2020 年度） | 目標値<br>令和 8 年度（2026 年度） |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| モビリティ・マネジメントに係る取組件数                                                                                                                                                                        | 0 回/年                   | 2 回/年                   |
| <b>指標の算定方法</b><br>市がモビリティ・マネジメントに係る取組件数を把握し算定します。<br><算定対象><br>○ 路線バスの乗り方教室<br>○ 乗合タクシーの出前講座<br>○ ターゲットに合わせたモビリティ・マネジメントの実施<br><b>目標値の考え方</b><br>算定対象の取組のうち、いずれかを年に 2 回実施することで、目標達成を目指します。 |                         |                         |

## 全体的な評価指標

上記の事業 1 ～9 に取り組むことによる総合的な効果として、以下を全体的な指標として設定します。

| 評価指標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |        | 現状値<br>令和元年度<br>(2019 年度) | 参考値<br>令和 2 年度<br>(2020 年度) | 目標値<br>令和 8 年度<br>(2026 年度)                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------|-----------------------------|------------------------------------------------|
| 公共交通（航路、路線バス、乗合タクシー）の年間延べ利用者数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 航路     | 1,986 千人                  | 1,608 千人                    | 1,695 千人<br>※港湾統計の公表タイミングにより<br>令和 7 年度の数値を用いる |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 路線バス   | 499 千人                    | 442 千人                      | 511 千人                                         |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 乗合タクシー | 9 千人                      | 7.5 千人                      | 11 千人                                          |
| <b>指標の算定方法</b><br>航路は国土交通省の港湾調査から、路線バス・乗合タクシーは各運行事業者から市が資料を収集し把握します。<br><b>目標値の考え方</b><br><航路><br>過去 5 年間（新型コロナウイルス感染症の影響を除く平成 27 年度～令和元年度）の減少率は、▲3.1% となっています。新型コロナウイルス感染症の影響が少ない令和元年度の乗降客数を基準として、このまま推移した場合、令和 7 年度の乗降客数は 1,644 千人となります。各種施策を実施することにより、対前年減少率を▲2.6%に抑制した場合の推計値である 1,695 千人を目標値に設定します。<br><路線バス><br>新型コロナウイルス感染症の影響がない令和元年度の 1 日乗降客数は 1,367 人です。各種取組を実施することにより、1 日乗降客数 1,400 人を目指し、1 年間に換算した 511 千人を目標値に設定します。<br><<乗合タクシー>><br>新型コロナウイルス感染症の影響がない令和元年度の 1 日乗降客数は 24 人です。各種取組を実施することにより、1 日乗降客数 30 人を目指し、1 年間に換算した 11 千人を目標値に設定します。 |        |                           |                             |                                                |

## 第8章 計画の進捗管理・目標達成状況の評価

### 8-1 計画の推進体制

本計画の進捗管理や目標達成状況等の評価は、江田島市公共交通協議会が行います。

### 8-2 事業スケジュール

計画に掲げる各事業のスケジュールは、次のとおりです。引き続き、継続事業に取り組むとともに、新規事業についても、交通事業者等と連携しながら段階的に実施します。

表 10 事業スケジュール

| 事業                           | 実施主体 |       |    |     | 事業スケジュール                                                                                                 |       |       |       |       |
|------------------------------|------|-------|----|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|
|                              | 江田島市 | 交通事業者 | 市民 | その他 | 令和4年度                                                                                                    | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業1 海上交通における移動手段の確保          | ●    | ●     |    |     | <br>継続的に実施            |       |       |       |       |
| 事業2 陸上交通における移動手段の確保          | ●    | ●     |    | ●   | <br>継続的に実施          |       |       |       |       |
| 事業3 ニーズを踏まえた地域公共交通網の見直し      | ●    | ●     |    |     | <br>交通事業者との調整 実施    |       |       |       |       |
| 事業4 公共交通の利用環境の整備             | ●    | ●     |    |     | <br>継続的に実施          |       |       |       |       |
| 事業5 利用者が分かりやすい公共交通情報の提供      | ●    | ●     |    |     | <br>継続的に実施          |       |       |       |       |
| 事業6 需要の掘り起こしに向けた取組の実施        | ●    | ●     |    | ●   | <br>継続的に実施          |       |       |       |       |
| 事業7 運賃負担の軽減策の実施              | ●    | ●     |    |     | <br>継続的に実施          |       |       |       |       |
| 事業8 新たな技術を活用した公共交通サービスの調査・研究 | ●    | ●     |    | ●   | <br>交通事業者との調整 調査・研究 |       |       |       |       |
| 事業9 モビリティ・マネジメントの実施          | ●    | ●     | ●  |     | <br>継続的に実施          |       |       |       |       |

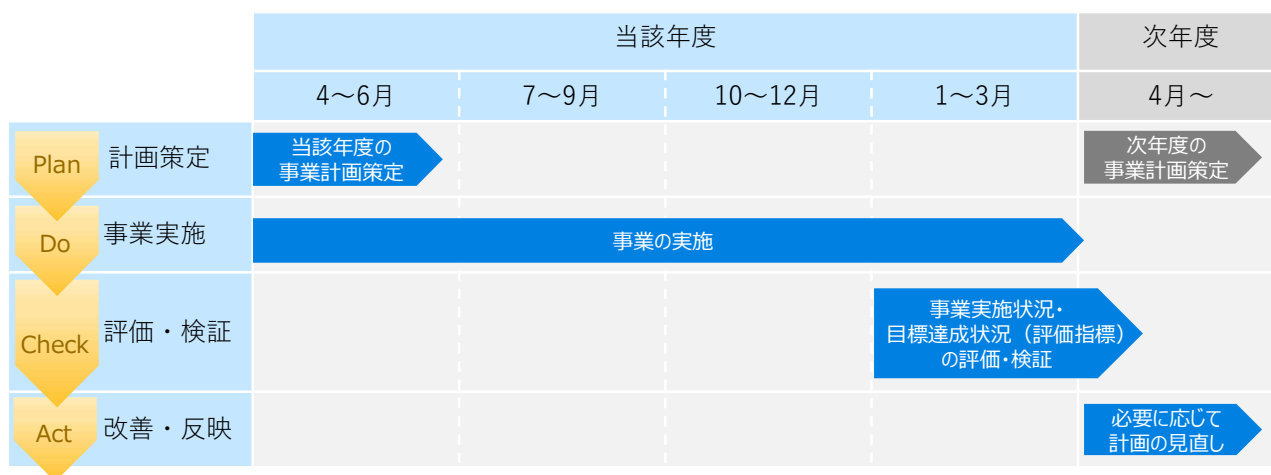
### 8-3 事業の進捗管理と評価のスケジュール

目標の達成状況及び事業の実施状況については、以下に示すように PDCA サイクルに基づいて定期的に評価と検証を繰り返し、必要に応じて計画の見直しを行う等の改善を図りながら計画を推進します。

#### ○評価スケジュール

- ・対象年度の翌年度に開催する江田島市公共交通協議会において、目標値の達成状況及び事業の実施状況について評価・検証を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。
- ・令和9年度（2027年度）に最終評価を行い、次期計画の策定に向けた検討を行います。

図 78 PDCA サイクル



## 参考資料

### 江田島市公共交通協議会委員等名簿

#### (1) 江田島市公共交通協議会委員

| 構 成                            | 所 属                | 役 職       |
|--------------------------------|--------------------|-----------|
| 江田島市副市長                        | 江田島市               | 副市長       |
| 江田島市企画部長                       | 江田島市               | 企画部長      |
| 一般旅客自動車運送事業者                   | 江田島バス株式会社          | 代表取締役     |
| 一般旅客自動車運送事業者の運転手の代表者           | 江田島バス株式会社          | 従業員代表     |
| 一般旅客定期航路事業者                    | 広島県旅客船協会           | 会長        |
| 一般旅客定期航路事業者の船員の代表者             | 瀬戸内シーライン株式会社       | 船員代表      |
| タクシー事業者                        | 広島県タクシー協会          | 江能支部支部長   |
| 利用者又は住民代表者                     | 江田島市自治会連合会         | 会長        |
|                                | 江田島市老人クラブ連合会       | 会長        |
|                                | 江田島市社会福祉協議会        | 会長        |
|                                | 江田島市女性会連合会         | 会長        |
|                                | 江田島市観光協会           | 代表理事      |
| 国土交通省中国運輸局長又はその指名する者           | 中国運輸局海事振興部         | 旅客課長      |
| 国土交通省中国運輸局広島運輸支局長<br>又はその指名する者 | 中国運輸局広島運輸支局        | 首席運輸企画専門官 |
| 広島県地域政策局長又はその指名する者             | 広島県地域政策局交通対策<br>担当 | 交通対策担当課長  |
| 道路管理者                          | 江田島市               | 土木建築部長    |
| 広島県警察江田島警察署長又は<br>その指名する者      | 江田島警察署             | 地域交通課長    |
| 学識経験者その他協議会が必要と認める者<br>(大学教授等) | 国立広島商船高等専門学<br>校   | 教授        |

## (2) 江田島市公共交通協議会オブザーバー

| 構 成         | 所 属           | 役 職     |
|-------------|---------------|---------|
| 一般旅客定期航路事業者 | 瀬戸内シーライン株式会社  | 代表取締役   |
| 一般旅客定期航路事業者 | 上村汽船株式会社      | 代表取締役   |
| 一般旅客定期航路事業者 | さくら海運株式会社     | 代表取締役   |
| 一般旅客定期航路事業者 | 有限会社バンカー・サプライ | 代表取締役社長 |
| 一般旅客定期航路事業者 | 広島県旅客船協会      | 会長      |
| 利用者又は住民代表者  | 能美町自治会連合会     | 会長      |
| 利用者又は住民代表者  | 沖美町自治会連合会     | 会長      |
| 利用者又は住民代表者  | 大柿町自治会連合会     | 会長      |